

令和5年度

「令和の日本型学校体育構築支援事業」  
モデル校取組事例集



紀の川市立田中小学校での体育科の様子

和歌山県教育委員会

## はじめに

和歌山県教育委員会では、「児童生徒の体力向上」を学校教育において取り組むべき大きな目標の一つとして掲げ、その目標達成に向け「学校体育の充実」及び「運動機会の拡大」に取り組んでまいりました。

このような中、「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点において、小学校5年生は男女とも11年連続全国平均を上回り、中学校2年生も、男女とも5年連続で全国平均を上回りました。また、近年、生活習慣が変化したこと等により、低下してきていた体力は回復基調となりましたが、コロナ以前の水準には至っていません。さらに、項目別に見ると、小学校5年生において、男女ともに「50m走」、「立ち幅とび」に課題があり、中学校2年生では、男女ともに「50m走」、「立ち幅とび」、「持久走・20mシャトルラン」に課題があります。一方で、運動習慣等調査の結果において、「体育が楽しい」と回答した児童生徒が増加していることから、今後も魅力ある授業づくりを推進することで、引き続き運動好きな児童生徒の育成が必要であると考えています。

本年度は、「体育・保健体育指導力向上プログラムモデル校」（小・中・高等・特別支援学校各1校）、「体力向上プログラムモデル校」（小学校1校）、「武道推進モデル校」（中学校8校）を指定し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいただくとともに、領域別に授業研究を進めていただきました。

本取組事例集は、各モデル校の取組内容及び成果と課題を掲載していますので、各学校における今後の授業づくりの一助として御活用いただければ幸いです。

結びに、本取組事例集作成に御尽力賜りましたモデル校の関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、今回の事業に御協力いただきました当該市町教育委員会及び地域の学校体育研究会に深く感謝の意を表します。

令和6年2月

和歌山県教育庁生涯学習局スポーツ課長 田伏 利久

# 目 次

## 1 取組事例

	校種	学校名	学年等	領 域 等	授業者	ページ
	体育・保健体育指導力向上プログラムモデル校	小学校	紀の川市立 田中小学校	6年A組	ボール運動 ネット型 (ソフトバレーボール)	山本 祥
中学校		紀の川市立 貴志川中学校	2年4組	球技 ネット型 (バレーボール)	畑山 武宏	14
高等学校		県立桐蔭 高等学校	2年CDE組 (テニス選択 生)	球技 ネット型 (テニス)	中条 文弥	26
特別支援学校		和歌山大学教育学部 附属特別支援学校	1～6年	体づくり運動 ボールを使った運動やゲーム	藪本 安有美	34
プログラム体力向上モデル校	小学校	和歌山市立 吹上小学校	6年	陸上運動	東山 諒	41
モ デ ル 推 進 武 道 校	校種	学校名	学年等	領 域 等		ページ
	中学校	九度山町立 九度山中学校	3年	武道 (なぎなた)		47
		田辺市立 上秋津中学校	3年	武道 (合気道)		49
		田辺市立 上芳養中学校	1年	武道 (合気道)		51
		田辺市立 新庄中学校	2年	武道 (合気道)		53
		田辺市立 中芳養中学校	1年	武道 (合気道)		55
		田辺市立 東陽中学校	2年	武道 (合気道)		57
		田辺市立 明洋中学校	1～3年	武道 (合気道)		59
田辺市立 龍神中学校		3年	武道 (合気道)		61	

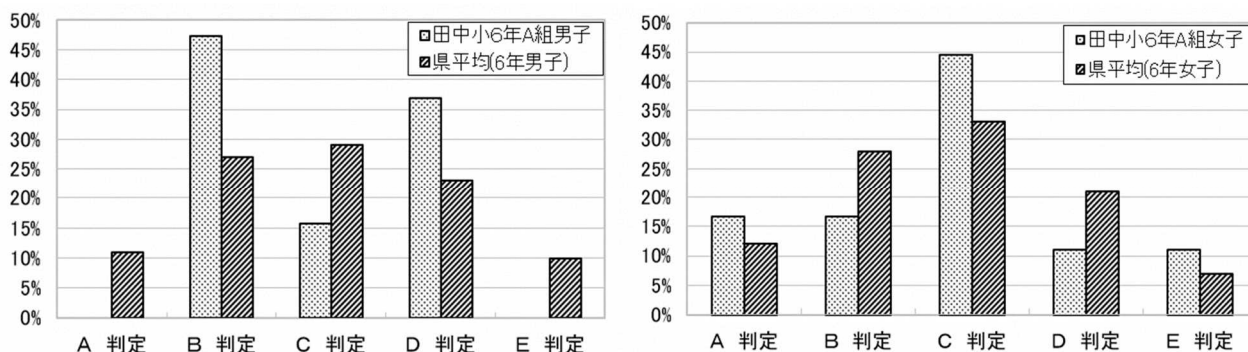
## 2 参考 【平成21～令和4年度授業研究会開催内容一覧】

体育・保健体育指導力向上  
プログラムモデル校  
取組事例

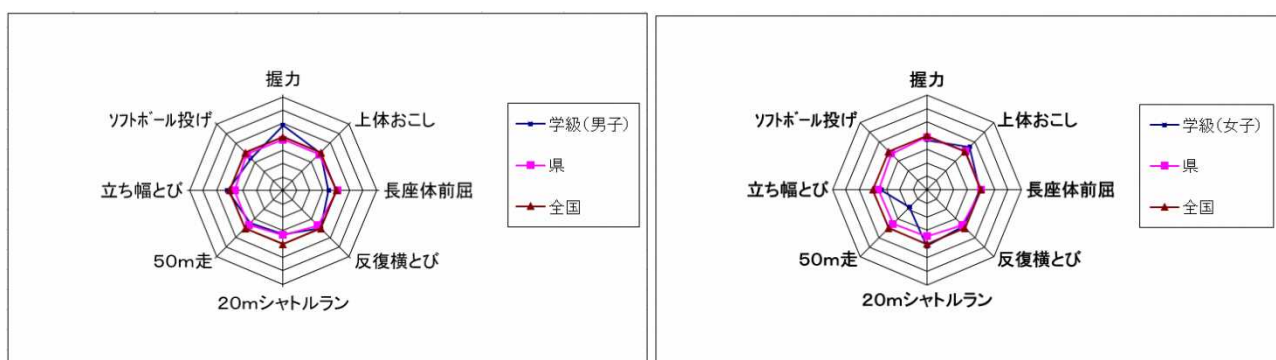


[令和5年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た児童の実態]

[グラフ1] 判定別割合 (男女別)



[図1] 【Tスコアによる全国比較図 (男女別)】



アンケートでは、体育科の学習が好きだと回答した児童が多く、普段の授業から活発に取り組んでいる。中でも、ボール運動は特に積極的に取り組める児童が多いと感じる。しかし、中には運動が苦手と感じている児童や学習に対して前向きになれない・意欲的になれない児童もいる。その理由として、「ボールが怖い」「ルールが難しい」「上手にできない」などがある。

普段からボールに触れる機会が少なく、ボールが「怖い」と感じたり、チームスポーツだから仲間に迷惑をかけてはいけないと感じたりして、前向きに取り組むことができないというところに課題があると考えている。

体力・運動能力調査結果から、男子では、A・E判定がないという現状がある。項目別にみると、柔軟性や持久力に課題がある。

女子は、児童の半数以上がA～C判定である。しかし、D,E判定者も一定数おり、運動に苦手意識を持っている児童が多い。「運動ができない＝運動に対して苦手意識を持っている」という特徴が見受けられる。項目別にみると、50m走のTスコアが全国や県と比べて大幅に下回っていることが課題である。

男子も女子もそれぞれ違った課題があるが、その背景には、運動場で遊ぶ児童が減少するなど、体を動かす機会が減っていることが関係していると思われる。

## (2) 課題解決のための学習形態の工夫

「ボールが怖い」という恐怖心を持っている児童のために、この単元では、ビニール(100g)のソフトバレーボールを使用し、ボールに当たったときの衝撃を和らげ、少しでも前向きに取り組めるようにしたい。

次に、最終の目標を設定し、レベルを3つに分けた試合を行う。レベル1(1バウンドしてもよい・1回キャッチしてもよい・4回までに返す) レベル2(ノーバウンドでつなぐ・1回キャッチしてもよい・4回までに返す) レベル3(ノーバウンドでつなぐ・1回キャッチしてもよい・3回までに返す)と段階的に学習を行っていくことで、ソフトバレーボールが苦手な児童でも参加しやすくなり、少しずつレベルアップができるのではないかと考えたからである。そして、最終的にはバレーボールのルールに近づけ、今後につながるようにしたい。

また、チームに迷惑をかけてはいけないと思っている児童のために、チームでの話し合いの時間を設け、自分の役割を認識させるようにしたい。そして、自己やチームの特徴に応じた練習や作戦を選択させたり、考えさせたりして、運動が苦手な児童も主体的に活動させたい。

## (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた指導

すべての活動やルールなどを授業者が決めてしまうのではなく、児童から「こんな練習をやってみよう」や「自分たちのチームには、こんな作戦があったらいい」など児童が主体となって自分たちで話し合いを行い、学習を進められるようにしたい。そのために単元の前半で練習の行い方やルールの定着、作戦の立て方などを身に付けさせ、後半で自分たちのスタイルに合わせて取り組めるように指導していきたい。また、チームの作戦会議の時間を確保し、相手の練習や作戦からも刺激を受け、協働的に学習を進めることができると考えている。さらに、自分たちにあった練習・作戦を選択できるようにするため、学習のめあてをチームごとに立てさせるようにした。

ボール運動が苦手と感じている児童が多いことから、子どもたちの実態に合わせて、ルールの改善や活動の内容の変更を行い、技能が定着していないときは、少し時間をとり、余裕を持って柔軟に計画を進めることができるようにしたい。

また、運動量を確保するために全6チームが常に試合ができるように3コート用意する。試合に出ていない児童にも役割を与え、全員で試合に取り組めるようにしたい。そして、同じ子が出続けることがないように、ローテーションで選手交代を行う。その際、番号の入ったビブスを着用し順番に交代させるようにしようと考えている。

場の設定としては、横12m、縦6mのコートに各チーム4人が入り、ネットの高さを180cmとし、4人各々が役割のある動きが出来るようにしたい。チームの人数は6~7人の6チームで、試合に出ていない児童の役割としては、得点係、撮影係を考えている。出ていないときもチームのために活動させるようにしたい。

4 本時について

(1) 目標

(知識及び技能)

レシーブやトスを使って味方にボールをつなぐことができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

課題解決のために自己や仲間の動き方、プレーについて考えたことを友達に伝えることができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)

仲間や相手の考えや取り組みを認めようとするようにする。

(2) 展開 (本時：5 / 7 時)

	学習内容・活動	○授業者の指導・支援 ☆評価
導入 (5分)	1 用具や場の準備をし、準備体操をする。	
	チームの特徴や課題に応じた作戦を実行し、試合の中で考えたことを伝え合おう。	
	2 本時のめあてを確認する。  3 チームのがんバレーと本時の作戦も確認する。	○ 事前にチームのめあて、作戦は考えさせておく。
展開 (35分)	4 ペア、グループで基本練習を行う。 (対面で) トス・レシーブ (ネットを挟んで) サーブ・アタック	○ 帯で行っている練習なので、素早く行えるようにする。
	5 チームで練習を行う。	○ 自分たちのめあてにあった練習を選択したり、考えたりできるように声かけをする。
	6 レベル2の試合をする。(7分×2) ・バウンドなし ・キャッチ1回まで ・4回までに返す	○ チーム内で、アドバイスなどの声かけが盛んに行えるように指導する。  ☆ 仲間や相手の考えや取り組みを認めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】  (観察・カード)



	7 ゲームが終わるごとにチームで話し合う。	☆ 課題解決のために自己や仲間の動き方、プレーについて考えたことを友達に伝えている。【思・判・表】 (観察・カード)
まとめ (5分)	8 片付け・次時に向けた振り返りを行う。 ○ チームで次へのめあてを立てる。 ○ チームの話し合いをもとに自分の振り返りを行う。	○ 次に生かしたいことや改善したいことを書けるようにする。

## 5 学習資料

### つないでつないでがんばレー 学習について

各時間の流れは学習カード通り

準備運動はチームごとに行う

チーム編成は 1チーム6～7人×6チーム



ルールは別紙を参考にする。

技能表も記入し、自分とチームの能力を把握できるようにする。

ゲームについて

1試合 7分程度 (礼に始まり、礼に終わる)

3コートで行う。(セルフジャッジで行う)

コートの大きさは縦6m、横12m、ネットの高さ180cm

試合に出られる人数は4人。残りの人は試合を撮影する撮影係、得点を入れる得点係。

試合後の話し合いは思ったことを積極的に伝え合う。

**つながりが大事なスポーツなので、チーム内で高め合える声かけをたくさんする。**

目標レベル3のルール (最後の大会はこのルールで行う)

- ・キャッチは1回まではオツケー
- ・ノーバウンドでつなぐ
- ・3回までに返す

レベル1のルール

- ・1バウンドOK
- ・キャッチは1回まで
- ・4回までに返す

レベル2のルール

- ・バウンドなし
- ・キャッチは1回まで
- ・4回までに返す

共通ルール

※サーブは下から投げ入れるか、アンダーハンドサーブ

※相手に返すとき、投げ入れるのは禁止

※選手はローテーションで入れ替わっていく

※同じ人が連続でさわってはいけない

※サーブ権は順番に交代していく

**※子どもたちの実態に合わせて変更していく**

#### 練習一覧

練習ゲーム (はじめの導入)

- ・つないでゲーム ボールを落とさないための練習、ルールを知る (慣れてきたらキャッチをなしにする)
- やり方: 基本のバレーのルール、全員キャッチOKでつなげる。

基本的な動き (運動、ゲーム)

**個人でボール操作のための練習**

- ・ボールリフティング (いろいろな部位でリフティング) (両手、片手、肩、ひじ、頭など)
- ・投げ上げキャッチ・アラカルト (自分で投げていろいろな姿勢でキャッチ) (拍手、ジャンプ、しゃがんで、ターン、寝転がって)

**ペアで基本的な動きの練習**

- ・レシーブ、トス
- やり方: ペアで向かい合って、お互いにレシーブ、トスでつなげる。
- ・アンダーハンドサーブ、アタック
- やり方: 2チームで片方はサーブ、アタックの練習。もう一方はボール集めを行う。

**チームで連携を意識した練習**

- ・円陣パス
- やり方: 円形になって、キャッチやトス、レシーブでつなげる。
- ・席替え鬼 (名前を呼んで入れ替わる。鬼以外は座っておく)
- やり方: 円形になって、名前を呼ばれた人がボールを取りに行く。
- ・パスパスゲーム サービスからパスをつないで攻撃を組み立てる練習
- やり方: 自分のコートにボールを投げ入れて、みんなでレシーブ、トス、キャッチでつなげて、アタックまでの流れをつくる。(時間内に何回つなげられるか)
- ・アタックゲーム 相手コートにボールを落とす練習
- やり方: 最後トスを上げて、相手コートに何回入れられるか競う。

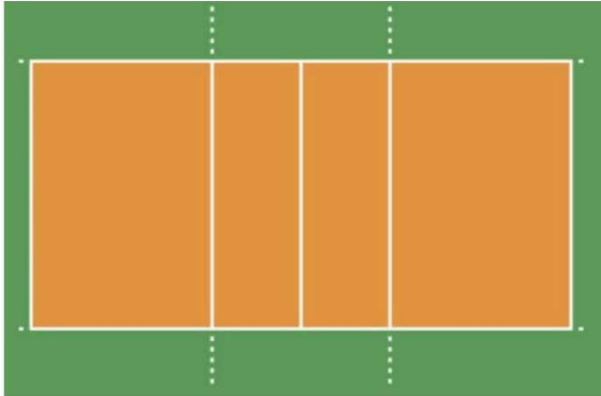
# つないでつないで がんばレー！

○全体のめあて

⑤チームの特徴や課題に応じた作戦を実行し、試合の中で考えたことを伝え合おう。

○自分たちのがんばレー

○作戦



○試合の結果

1 試合目 (VS ) ( 対 )

気づいたこと

2 試合目 (VS ) ( 対 )

気づいたこと

○チームの振り返り（次回に向けてがんばりたいこと、やってみたいことなど）

○個人の振り返り（良かったこと、悪かったこと、次がんばりたいことなど）


ソフトバレーボール これでマスター！！				できるようになったら○をつけよう。			
サーブ		レシーブ		トス		アタック	
相手コートに投げ入れることができる。		相手のボールをキャッチしてつなぐことができる。		仲間のボールをキャッチしてつなぐことができる。		相手コートにボールを返すことができる。	
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
相手コートにサーブすることができる。		相手のボールをレシーブすることができる。		仲間のボールをトスすることができる。		相手コートにアタックでボールを返すことができる。	
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
相手コートの狙ったところにサーブすることができる。		相手のボールを狙ったところにレシーブすることができる。		仲間のボールを狙ったところにトスすることができる。		相手コートの狙ったところにアタックでボールを返すことができる。	
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

### 対戦表

		Aコート		Bコート		Cコート	
1 試合目	レベル1	赤	VS	青	緑	VS	黄
2 試合目		赤	VS	緑	黄	VS	白
3 試合目		緑	VS	白	黄	VS	青
4 試合目		白	VS	青	黒	VS	緑
5 試合目	レベル2	黄	VS	黒	赤	VS	白
6 試合目		赤	VS	青	緑	VS	黄
7 試合目		赤	VS	緑	黄	VS	白
8 試合目		緑	VS	白	黄	VS	青
9 試合目	レベル3	白	VS	青	黒	VS	緑
10 試合目		黄	VS	黒	赤	VS	白
		青	VS	緑	黄	VS	赤

対戦表の左側・・・コートの北側（道路側） 対戦表の右側・・・コートの南側（運動場）

3 指導と評価の計画(小学校用)

別紙

単元の目標		知識及び技能		ネット型ゲーム(ソフトバレーボール)の行い方を理解するとともに、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームができるようにする。						
		思考力、判断力、表現力等		自己やチームの特徴や課題に応じた作戦や練習を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。						
		学びに向かう力、人間性等		ソフトバレーボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。						
時	1	2	3	4	5(本時)	6	7	授業づくりのポイント		
ねらい	学習の進め方、ゲームのルールを知り、単元の見通しを持つこと	基本的な技能の習得、個人の特徴や課題を見つけ、話したり書いたりすること	チームでの連携を意識し、チームの特徴や課題を見つけ、話したり書いたりすること	チームの特徴や課題に応じて、個人の役割にあった作戦を選んで取り組むこと	チームの特徴や課題に応じた作戦を実行し、その中で考えたことを伝えること	目標レベルのルールで今までの作戦が通用するか考えて取り組むこと	学習で身につけたことを発揮して、チームで協力して取り組むこと	・学習を段階的に行うことで技能面の習得や練習、試合の知識を習得できるようにし、徐々にその技能や知識を生かして、作戦や練習を工夫できるようにした。		
学習の流れ	0	1. 準備 準備運動 2. 本時のめあての確認(自分たちのめあても確認)							・子どもたちが主体的に取り組めるように、めあてや作戦なども児童たちが考えられるようにした。 ・チームでの話し合いの時間を十分確保できるようにした。	
	10	3. ペアで基本的な動きを練習する。(対面で) (ネット挟んで) ・レシーブ ・サーブ ・アタック								
学習の流れ	20	4. ミニゲームを行う。 ・円陣パス ・席替え鬼	4. ミニゲームを行う。 ・パスパスゲーム ・アタックゲーム	4. チームの作戦を確認する。 5. チームで練習を行う。(自分たちの実態に応じて選択する。)	4. チームの作戦を確認する。 5. チームで練習を行う。(自分たちの実態に応じて選択したり・考えたりする。)	4. チームの作戦を確認する。 5. チームで練習を行う。(自分たちの実態に応じて選択したり・考えたりする。)	4. 大会のルールを説明する。 5. レベル3の試合で大会を行う。	6. ゲーム後にゲームについての振り返りを行う。		
	30	5. ボールを使った運動を行う。 ・ボールリフティング ・投げ上げキャッチ	5. レベル1の試合を行う。(2試合) ・ワンバウンドOK ・キャッチ1回まで ・4回までに返す	6. レベル1の試合を行う。(2試合)	6. レベル2の試合を行う。(2試合) ・バウンドなし ・キャッチ1回まで ・4回までに返す	6. レベル2の試合を行う。(2試合)	6. レベル3の試合を行う。(2試合) ・バウンドなし ・キャッチ1回まで ・3回までに返す			
学習の流れ	40	6. ゲーム後にゲームについての振り返りを行い、次の試合に向けての作戦を考える。	7. ゲーム後にゲームについての振り返りを行う。	7. ゲーム後にゲームについての振り返りを行う。	7. ゲーム後にゲームについての振り返りを行う。	7. ゲーム後にゲームについての振り返りを行う。	7. ゲーム後にゲームについての振り返りを行う。	7. 片付けをする。		
学習の流れ	45	8. 片付けと次時に向けた振り返りを行う。								
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	評価方法	
	知	①	②	③				④	観察・カード・ICT	
	思				①	②			観察・カード・ICT	
単元の評価規準	知	①バレーボールの行い方について発言したり書いたりして理解している。(知識) ②ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。(技能) ③レシーブやトスを使って味方にボールをつなぐことができる。(技能) ④サーブやアタックで相手コートに打ち返すことができる。(技能)								
	思	①自己やチームの能力に適した課題や特徴を見つけ、課題解決に向けた練習や作戦を選んでいる。 ②課題解決のために自己や仲間の動き方、プレーについて考えたことを友達に伝えている。								
	態	①ソフトバレーボールに積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、勝敗を受け入れようとしている。 ③仲間や相手の考えや取り組みを認めようとしている。 ④危険な場にならないように整備したり、用具の安全を確かめたりしている。								

※知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

## 6 考察（成果と課題）

### （1）児童アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

#### 児童アンケート調査

	『はい』	どちらかといえ ば『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1.「ソフトバレーボール」は楽しかったですか。	26人	11人	3人	0人
2.「ソフトバレーボール」の学習で上手にできるようになったことがありますか。	24人	14人	2人	0人
3.「ソフトバレーボール」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。	23人	15人	2人	0人
4.「ソフトバレーボール」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか。	18人	14人	5人	2人
5.「ソフトバレーボール」の学習で友達と協力しあうことができましたか。	23人	12人	5人	0人

質問1『「ソフトバレーボール」は楽しかったですか。』について、ソフトバレーボールを楽しかったと回答した児童が37人いた。事前アンケートでは、「ソフトバレーボール」が好きと回答した児童が31人だったことから、6人が楽しいと考える児童が増えた。しかし、残りの3人は、楽しくなかったと回答したので、単元の途中にアンケートをとるなどして、みんながより楽しめるための改善が必要だったと感じた。

質問2『「ソフトバレーボール」の学習で上手にできるようになったことがありますか。』については、38人の児童が上手にできるようになったと回答している。基礎的な力を身に付けることができた要因として、単元を通して基本練習（レシーブ、トス、サーブ、アタック）を行い、技能表にチェックをつけるようにしたことが考えられる。

質問3『「ソフトバレーボール」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。』については、38人の児童がたくさんの気づきや新たな発見をすることができたという回答をした。新たな気づきを生むには、児童の対話が重要であると考えている。チームで練習したり、作戦を考えたりする時間をたくさん設けたため、対話が生まれ、活発に話し合うことができたのではないだろうか。

質問4『「ソフトバレーボール」の学習で考えたことを友達に伝えることができました



か。』について、2人の児童が「いいえ」と答えた。一部の児童が中心となってゲームを展開してしまうチームでは、なかなか思っていることを伝えられていなかった。考えや意見の共有方法をもっと工夫する必要があると思った。

質問5『「ソフトバレーボール」の学習で友達と協力しあうことができましたか。』について、大半の児童が協力の大切さに気付き、積極的にコミュニケーションや声かけを行っていた。しかし、中には一人で試合を展開させている児童もいたので、ルールの工夫などで改善していかなければいけないと感じた。

## (2) 児童の実態を踏まえた単元計画について

児童が見通しを持って学習に向かうことができるようにするため、単元の中で、レベルを3つに分けて試合を行った。事前の単元計画では7時間で考えていたが、レベル1の内容でプラス1時間、レベル2の内容でもプラス1時間で合計9時間行った。2時間増やした理由としては、児童からもう1時間、同じレベルで練習したいという声があったことに加え、児童の実態を踏まえると、次のレベルへ進むのはまだ早いと感じたからだ。この2時間強で、児童の技能（レシーブやトス）向上、連携（声かけや作戦）強化につながったと考える。

また、ソフトバレーボールをするにあたって、作戦を立てることや連携を強化させることはもちろん大事だが、そのことが充実するためにも、児童にソフトバレーボールの技能を身に付けさせることに重点をおいた。具体的な方法としては、毎時間の最初に帯の活動として基本練習を行ったことだ。最初は、「とりあえずボールを上を上げたらいい」と考えていた児童も連携や作戦を意識し、相手のことを考えてプレーしなければいけないことに気づき、自分だけでなく、チームのことを考えて練習に向かうことができていた。

課題としては、最初のレベルでキャッチを有りにしたことだ。練習でできているトス、レシーブをせずに、キャッチのみでボールをつないでいる児童がいた。児童の実態に合わせるのであれば、キャッチは必要だと思うが、伝え方や使い方を考えなければならぬと思った。

また、ICT機器で試合の流れや練習の様子を撮影していたが、あまり時間がとれず、話し合いの場で映像を見ることができなかった。単元を通して、もっと時間に余裕を持てる単元計画が必要だと感じた。



### (3) 児童が、主体的に学習に取り組めるような授業づくりや学習形態の工夫点について

#### ア ルールについて

レベル1（キャッチあり、バウンド1回、4回までに返す）のルールでスタートした時、ボールをキャッチした児童がネット際まで歩いていき、その児童がボールを投げ、アタックを打つという、バレーのルールとは、かけはなれたものになっていた。そこで、児童と話し合い、ボールをキャッチした児童はその場から動けないというルールを追加した。児童は自分たちの意見でルールが改善されることをすごく喜んでいて、このように、ルールを改善し、バレーのルールに近づいていくにつれ、作戦を考えるようになっていった。

このように単元を通して児童とたくさん話し合いをしながらルールや練習などを考えていくことができた。

しかし、レベル1の試合のスタート段階から、もう少しレベルを上げたり、最終の目標となる児童の姿を日々の練習から、もう少し意識させたりすることができれば、技能の向上や作戦の充実などがより期待できていたかもしれないと思う。

#### イ 学習カードについて

チームで振り返ることを意識させるため、チームで一つの学習カードを使った。みんなの振り返りが見られるため、思っていることの共有が素早くできた。しかし、チームの課題や特徴を記しておける箇所を学習カードに用意することができていなかったことから、振り返りの際にその日の課題についての話し合いに終始した。書きためられるものを用意しておけば、自分たちのチーム分析を行うことができたと考えられる。

#### ウ グループ作りについて

学級の中でリーダー的な存在の児童が6人いるので、その6人を中心にチーム分けを行った。様々な児童がいるので、運動能力、コミュニケーション能力などを考えてチーム分けを行った。どのチームも予想以上に活発な話し合いや良い声かけができ、チームワークを高められていた。また、人数が比較的多いと思っていたが、役割を交代しながら、チームで協力し合い、頑張ることができていた。

#### エ 教具の工夫について

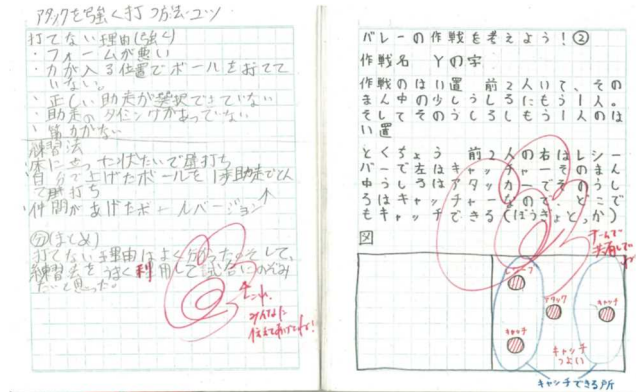
ボール運動に恐怖心を持つ児童が意欲的に取り組むことができた理由の一つとして、100gのソフトバレーボールを用いたことが挙げられる。しかし、100gのソフトバレーボールでは、中学校との連携が難しいという意見も研究協議の中で出た。児童の実態を踏まえ、今までの積み重ねも考えてボールの選択をしていかなければならないと感じた。





(4) その他

単元を終えて、最後の振り返りを行うと、今回のソフトバレーボールの学習から「協力の大切さを改めて学んだ」や「何事も最初からできないと思うのではなく、まずはやってみようと思うことが大事だということ学んだ」など、とても前向きな振り返りが多かった。また、授業の中でソフトバレーボールに興味を持ち、自主学習などで、チームの作戦を考えたり、スキルアップのことを調べたりする児童がたくさんいた。今回のソフトバレーボールの授業を行って、多くの児童がソフトバレーボールを楽しんでいると感じてくれたので、学びに向かう力、人間性等の育成に向けた取組内容としては、良かったのではないかと思います。



## 体育科学習指導案

日 時：令和5年11月6日（月） 13：25～14：15
場 所：紀の川市立貴志川中学校 体育館
学 級：2年4組 35名（男子18名 女子17名）
授業者：教諭 畑山 武宏

### 1 単元名 球技「バレーボール」～共生の視点を重視した体育授業を目指して～

### 2 指導にあたって

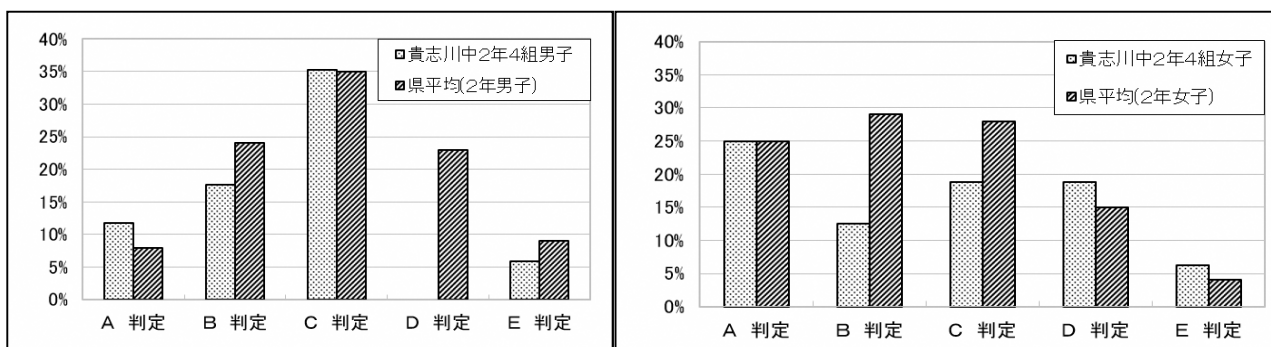
(1) 生徒の実態（アンケート調査、体力・運動能力調査結果）から見えてくる課題

生徒アンケート調査(32名)

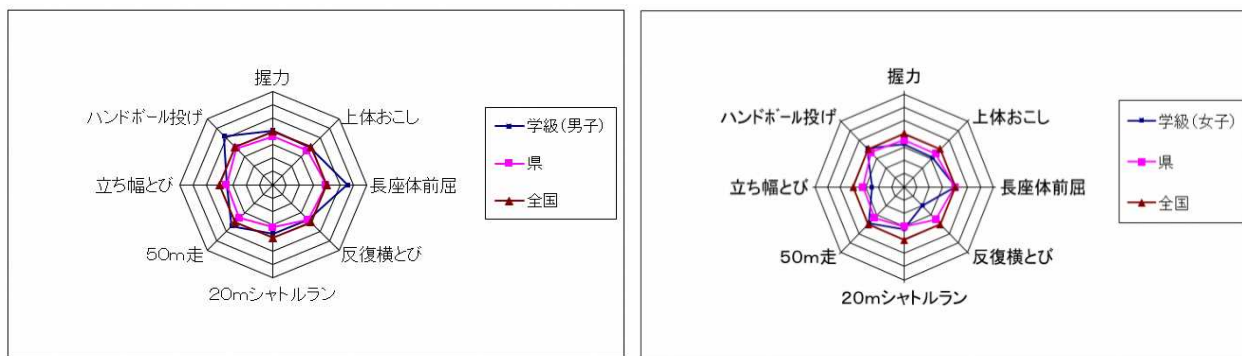
アンケート内容	『はい』	どちらかといえ ば『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1.体育学習は好きですか	15	9	5	3
2.体育学習は得意ですか	7	9	8	8
3.今回学習する「球技」は好きですか	16	7	5	4
4.3で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた生徒の理由	理由 「ボール操作が苦手」「小学校の頃にボールがぶつかって怪我をしたから」「ミスが原因で嫌な顔をされたのが記憶に残っている」「下手だから周りに迷惑をかける」など			
5.今回学習する「バレーボール」は好きですか	11	15	4	2
6.5で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた児童生徒の理由	理由 「できないから楽しくない」「得意じゃないから楽しくない」「下手だから周りに迷惑をかける」「観戦は楽しい」など			
7.バレーボールでどんなプレーができるようになりたいですか。	「みんなで粘り強く続けるラリー」「スパイク・サーブをもっと上手に打てるようになりたい」「トスが思い通りに上げられるようになる」「スパイクを打ってみたい(憧れ)」「チームでコミュニケーションの取れた連携プレー」「単独得点じゃなくて、パスを繋げた得点」「チームで3段攻撃やクイックができるようになりたい」「声を掛け合って協力するプレー」など			

[令和5年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た生徒の実態]

[グラフ1] 判定別割合 (男女別)



[図1] 【Tスコアによる全国比較図 (男女別)】



Tスコアによる全国比較図(男女別)から、本学級の男子は全国と比較して全体的に上回っている項目が多い。また、D以下の判定はEが1名だけであり、アンケート調査の「体育学習は好きですか」の質問内容に対して『はい』の回答が多く、運動を好む生徒が多い集団である。女子は全体的に県平均を下回っている反面、A・B判定の生徒の割合が38%と高く、女子集団の中で能力差が大きく開いている。男女ともに「立ち幅とび」の値が低いことから、全身の連動を活かして瞬発力を発揮することが苦手であることが課題であるといえるため、バレーボールのスパイクを通じて全身連動によって力を発揮する感覚の向上に繋げたい。

アンケート調査では、質問内容1・3・5で『どちらかと言えば「はい」』『はい』が多いが、質問内容2で『どちらかと言えば「いいえ」』『いいえ』が多いことから、好きではあるが自信がないという消極的な面がうかがえる。また、球技及びバレーボールが苦手な生徒の理由として「過去の失敗からの苦手意識」や「技術の未熟さ故の自信喪失」が見られるが、それらの生徒は技術の未熟さ故に課題を理解しており、ゲームに参加するための第一目標として自身の技能向上を重視している傾向が見られる。特筆する点としては、「どのようなプレーができるようになりたいか」という問いに対して、大多数が「共生」について触れた内容を記入していることである。このことから、積極的な生徒と消極的な生徒をどのように関わらせ、お互いのプレッシャーを取り除いていくかが「共生」の鍵であるといえる。

上記の運動能力及びアンケート調査から、本学級は技能の程度に関係なく「楽しむ」ことを目的に活動できる集団であり、相互に高め合うことを自らの理想としていることがうかがえた。

## (2) 課題解決のための学習形態の工夫

本学級は1年次にバレーボールを経験しており、トス・サーブの基礎技能は既習事項である。2年次では「仲間と連携した動きでゲームを展開できるようになる」ことを目指して「3段攻撃の感覚習得」に焦点をあてて単元の計画を立てた。

また、学習形態は生徒同士の相互学習及び連携意識向上のため、単元を通して男女混合5～6人のチームとした。

単元計画の前半にはチーム活動によるスパイクの練習を取り入れ、バレーボールの醍醐味である攻撃技術を全員が経験し、その後の授業に興味を持てるような学習内容とした。これは、課題の1つである全身連動の感覚獲得に時間をかける意図を持たせている。また、ネットの高さを中学生規定より低い2mとし、球技に自信がない生徒もネットを越えるスパイクを打てるという楽しみを経験できるようにした。

中盤から後半にかけては、「コート内での動き方が分からない」ことを改善するため、段階的に発展するゲームを取り入れる。キャッチバレーでは「トス無しで繋げる3段攻撃」とし、基礎技能の習熟度に関係なくパスラリーを続けることや、ボールを保持した場合の動きを体験させ、ゲームに参加する楽しさやチームで得点を狙う楽しさに気付かせたい。加えて、「トスについて考える」必要がないので個人の基礎技能以外に攻撃について思考を広げる余裕が生まれるため、3段攻撃のための一人目及び二人目は「パスの流れ」や「味方の取りやすい場所へボールを運ぶ」ことを考えること、3人目は得点を狙うために「相手の取りにくい場所や、空いたスペースに向けてボールを投げ入れる」ことを意識させる言葉掛けを授業者からも行っていく。

また、「技能差に関係なく楽しめる運動」を目指し、同時に共生に関する理解を深めさせるため、アダプテーションゲームを採用し「自分のチーム内」で行われていた戦略的思考の会話を、「相手チームを含めたもの」に広げていきたい。

## (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた指導

前述のとおり、本学級は運動が好きではあるものの自信がないためチーム競技に対して積極的になれない生徒が多数在籍する集団である。そのため、自信のなさから生まれるチームスポーツへのプレッシャーを払拭するため、生徒同士でフォローし合い、学び合う環境を意識させたい。

単元前半で行うスパイク練習は単なる技術向上だけが目的ではなく、相互学習の環境の構築を同時に目的としている。また、中盤から後半にかけて設定した試合では、6チーム中4チームが試合、2チームはミーティング兼審判とし、試合後に自分たちの活動を振り返る対話の時間を設定している。

生徒間の相互学習を活発化させるために、タブレット端末のカメラ機能で写真やスローモーションを使用し相互に撮影した映像を用いたり、ロイロノートの資料箱に保管した模範動画を確認したりできるようにして、生徒自身のタイミングで会話や分析の対象を得られるように努める。自分の姿を撮影し、それを人に見せる(チームで分析される)ことに抵抗がある生徒がいるため、授業者が上手く誘導して撮影させるようにしたり、会話や分析の焦点を修正したりしていきたい。

試合の時間には、主体的・対話的で深い学びを充実させるため、ロイロノートで配布し

た学習カードに試合の振り返り・個人及びチームの課題の設定等を記入させ、間近の試合から感じたことを交流させるようにした。

#### (4) 指導と評価の在り方等

活動の流れを毎時間共通の形式として、生徒が単元および授業の見通しを持ちやすいようにしている。これによりチーム活動の活発化をねらい、生徒同士の主体的な思考や表現による試行錯誤を観察して、思考・判断・表現及び主体的に学習に向かう態度の評価に繋がりたい。

また、段階的に発展するゲームを毎時同じ展開で取り入れた。単元を通して連続した流れの中で生徒の成長を見取り、評価に繋がったり、個人やチームで前時には達成できなかった課題を発見して自己評価に繋がったりしていきたい。

本単元はタブレット端末上のロイロノートを利用して学習カードを各生徒が作成することにより、多方向に共有しやすいシステム環境を学習に利用している。主体的な学びを促し、仲間を意識して学習を調整しようとする側面を積極的に評価するため、個人で課題の分析、その後チームで共有・課題の設定などを行った。

### 3 指導と評価の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・【別紙様式参照】

#### 4 本時について

##### (1) 目標

(知識及び技能)

- ・ バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力を理解させるとともに、ボールの操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所の攻防をすることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

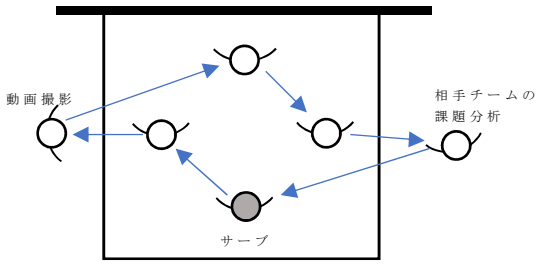
- ・ 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けた運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)

- ・ バレーボールの学習に積極的に取り組むとともに、作戦などの話合いに参加し貢献したり、フェアプレイを守ったりして、仲間と助け合いながら運動できるようにする。

(2) 展開 (本時：11 / 12時)

	学習内容・活動	○授業者の指導・支援 ☆評価
導 入	<p>1, 体操、挨拶</p> <p>本時の流れ及びねらいの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに1列縦隊×6列で集合。</li> </ul>	<p>○始業時に気持ちの切り替えを意識させる。</p> <p>○学習の流れを説明して、授業の見通しを待たせ、本時のねらいを確認させる。</p>
	<p>本時のねらい 『自分達の課題からアダプテーションを選択する』</p> <p>発問1 自分達のチームは何ができないからラリーが続かないのか？</p> <p>2, チームミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでを振り返り分析、課題からアダプテーションを検討</li> <li>・練習を計画</li> </ul>	<p>☆仲間と話し合う場面で、自己やチームの課題を見付けている。 <b>(観察)</b></p> <p>○前時を振り返って課題分析・共有することを促す。</p> <p>○タブレットの活用を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の振り返りカードの確認</li> <li>・資料箱の模範動画活用</li> </ul> <p>○ボールを持たない時の動きについて意識できている生徒とそうでない生徒の課題を互いに意識させるように言葉がけを行う。</p>
展 開	<p>3, チーム練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティングで計画した練習に取り組む。</li> </ul> <p>4, アダプテーションゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5分間ゲーム</li> <li>・前回や直前の試合から判断してアダプテーションの交渉</li> <li>・4チーム試合(相互審判)</li> <li>・残り2チームの動き</li> <li>①タブレットで課題研究</li> </ul>	<p>○安全に留意して練習を行うよう言葉がけを行う。</p> <p>☆仲間と話し合う場面で、自己やチームの課題を見付けている。 <b>(観察)</b></p> <p>○相手との交渉の中で、チームの課題に応じたアダプテーションを選択できるように促す。</p> <p>○直前の試合からアダプテーション選択の改善に繋げるように促す。</p> <p>○チームの動きを補助する言葉がけ</p>

	<p>②自分たちに必要なアダプテーションの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ローテーション(6～5人)</li> </ul>  <p>⇒1 得点ごとにローテーション ⇒動画撮影 1 名 (ロイロ共有ノートに随時入れていく) ⇒相手チームの課題分析 1 名 (ロイロ共有ノートに随時入れていく)</p>	<p>を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コート外の生徒管理に注意する。</li> </ul>
<p>ま と め</p>	<p>5, 授業のまとめ・振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体を通して改善点や良かった点を伝える。</li> <li>本時目標の達成状況を確認する。</li> </ul>

5 学習資料 (添付) ロイロノート資料箱内

①学習カード

**回目**

**バレーボール 学習カード**

・自己分析 (前回設定した個人目標、今回の授業目標から)  
◇良かった点 (前回との比較・できるよりになったこと等) ◇改善点

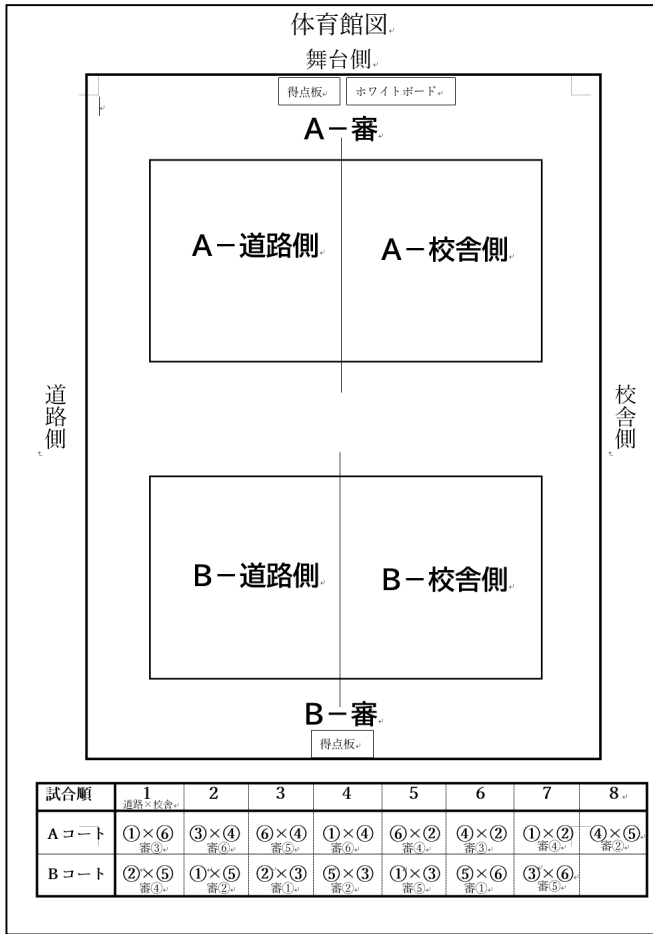
・次回の個人目標 (改善点からの具体的な解決策)

・チームの分析 (前回設定したチーム目標、今回の授業目標から)  
◇良かった点 (前回との比較・できるよりになったこと等) ◇改善点

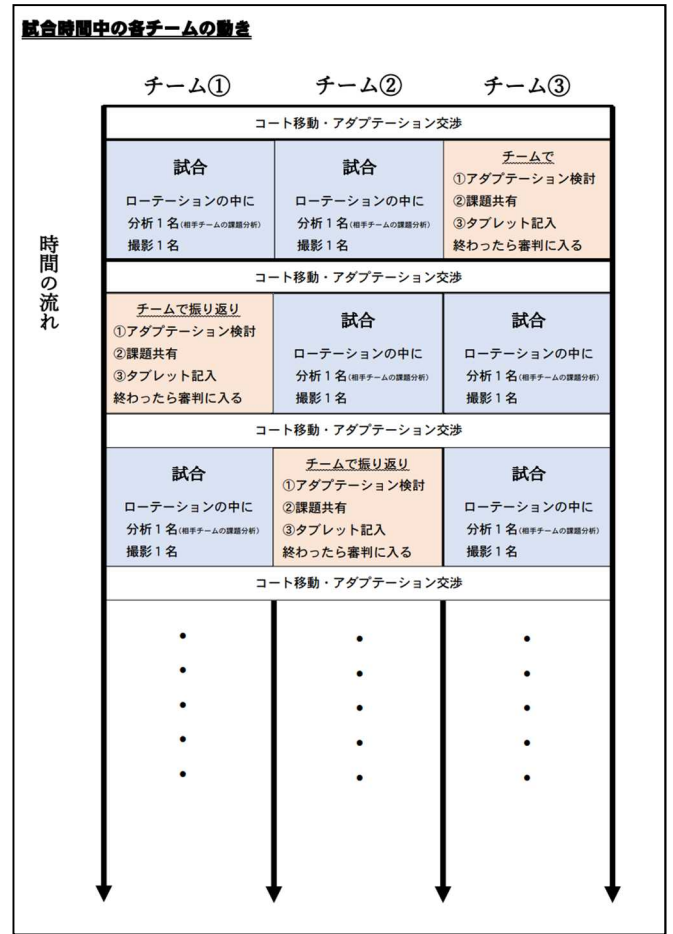
・次回の目標 (改善点からの具体的な解決策)  
◇チーム

・他者からのアドバイスがあれば書いておこう

② 体育館図



③ 各チームの動き



④ アダプテーションカード

<p>①</p> <p>最初の攻撃方法を破られることで、ラリーメインのゲーム展開に移行しやすい。両チーム、ラリーの中で得点を目標とする戦略が求められる。</p>	<p>②</p> <p>指定されたポジションで動くことで、ポジションの役割を全うしようとする力や判断力、チームの連携力が求められる。</p>	<p>③</p> <p>一度触った人はその三発攻撃に関与できないため、誰が何回目に触りに行くかが重要になる。</p>	<p>④</p> <p>スパイクのレシーブを諦めることなく追いかける積極性を強化できる。ただ、バウンドボールを追いかけるための守備の仕方とも考えなければならぬ。</p>
<p>①</p> <p>可観測の観戦度を上げる</p> <p><b>フローターサーブ禁止</b></p>	<p>②</p> <p>可観測の観戦度を下げる</p> <p><b>二人目だけキャッチ許可</b></p>	<p>③</p> <p>可観測の観戦度を上げる</p> <p><b>3回とも別の人が触れてリターン</b></p>	<p>④</p> <p>可観測の観戦度を下げる</p> <p><b>スパイクのみワンバウンドレシーブOK</b></p>
<p>⑤</p> <p>ラリーに移行しやすく、その後の展開に集中した攻防を意識しやすい。両チーム、ラリーの中で得点を目標とする戦略が求められる。</p>	<p>⑥</p> <p>制限回数が増えることでミスカバーしやすくなり、チーム内で落ち着いたパス回しが可能になる。</p>	<p>⑦</p> <p>ボールに触れたプレーヤーがコート外に移動することで、残されたプレーヤーには空間を埋める動きが要求され、コート外から復帰するプレーヤーは、状況判断して戻り方を考える難しさが追加される。</p>	
<p>⑤</p> <p>可観測の観戦度を下げる</p> <p><b>サーブはアタックラインまで出てOK</b></p>	<p>⑥</p> <p>可観測の観戦度を下げる</p> <p><b>回リターンOK</b></p>	<p>⑦</p> <p>可観測の観戦度を上げる</p> <p><b>指定されたプレーヤーはボールに触れた後マーカーを踏みに行く</b></p>	

⑤ 模範動画集



## 6 考察（成果と課題）

### （１）生徒アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

#### 生徒アンケート調査

	『はい』	どちらかとい えば『はい』	どちらかとい えば『いい え』	『いいえ』
1.「バレーボール」は楽しかったですか。	20	7	1	0
2.「バレーボール」の学習で上手にできるようになったことがありますか。	16	9	3	0
3.「バレーボール」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。	19	4	5	0
4.「バレーボール」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか。	9	12	4	3
5.「バレーボール」の学習で友達と協力しあうことができましたか。	22	5	1	0
6.アダプテーションの設定・交渉に積極的な参加ができたと思いますか。	15	9	1	2
7.自分のチームでは全員が楽しめるアダプテーションの設定・交渉ができたと思いますか。	17	11	0	0
8.今後「バレーボール」があれば、どんなことを目標にして取り組みたいですか。	「3段攻撃のパターンを増やす」「自分で打ちに行く(遠慮しない)」「全員が楽しめる試合」「まわりを見て、でしゃばらないようにバランスをとる」「ポジティブな声かけで楽しく」「協力してラリーがもっといっぱい続いたらいいな!」「助け合いたい」「サーブをもっと上手くなる」「積極的にボールに向かう!」「習った技を使ってチームで戦略を立てたい」			

単元終了後アンケートでは、質問内容1で『どちらかと言えば「いいえ』』が1名となっており、事前調査では消極的かつ技能面に不安のあった生徒10名弱のほぼ全員が前向きに学習に参加できていたことが分かった。また、ほとんどの生徒が「楽しめた」と回答していたことから、技能差に関係なくバレーボールを楽しむことができていたことがわかる。

しかしながら、残りの1名の学習指導の在り方について今後の研究課題が多く残ることとなった。質問内容2および3からは、技能、知識、思考において成長を感じる生徒が多かったことを推測できるものの、質問内容4においては『はい』『どちらかと言えば『はい』』と回答した生徒が授業者の予想を下回った。相互学習や共生という観点で、コミュニケーションが一方向であったことがうかがえる。また、問5で『協力できた』と答えた生徒が、質問内容6では『積極的に参加できなかった』と答えていたため、「ミスをして相手の得点とならないためのプレー＝協力できた」と捉えている生徒がいるのではないかと考える。

ただ、単元全体としてチーム内の雰囲気が高く「共生の視点」から考えれば評価できるものであったと考える。技能が高い生徒はチームのメンバーにコツ等を教える事で自信を獲得し、技能面に不安があった生徒や、バレーボールに苦手意識を持っている生徒の意識を改変したのではないかと考える。

## (2) 生徒の実態を踏まえた単元計画について

単元前半のスパイク練習は、ねらいどおり生徒のバレーボールへの意欲を高めることに成功した。『3段攻撃に繋げることができればスパイクの爽快感をゲームの中で味わうことができる』ということから、単元を通して目標であった「3段攻撃」及び「共生」に生徒が自ら迫る時間となり非常に良かった。加えて、スパイク攻撃に至らず、ボールをただ返すだけになってしまう場合や、思ったようにボールを扱えず、自陣コートにボールが落ちてしまう場合に感じるストレスをチームとしてどう向き合うかを考えさせる機会にもなった。



単元中盤に導入したキャッチバレーは、連携スピードが遅すぎて何をしているか分からなくなる場面(チーム)や退屈と感じる生徒がいた。生徒同士の技能や知識の差に目を向けさせ、課題を追求する練習に取り組むため、「連携スピードが遅いのはなぜなのか」をチームで考えさせた。



後半からのアダプテーションゲームでは、これまでのチーム状況から自分達の課題を考え、それを補うアダプテーションを選択することができていた。しかしながら、アダプテーションを選択するための判断の範囲がチームの枠を出ることがなく、当初授業者が目標とした相手チームも視野に入れたアダプテーションの選択までは至らなかった。さらに、アダプテーションの検討や交渉が一部の生徒のコミュニケーションに頼った進み方になりがちであったため、アダプテーション＝ハンディキャップに近い認識となってしまうように感じた。そのため、アダプテーションを選択することが双方の難易度の調整と学びを深める意味があると理解できた生徒は少数にとどまった。

アダプテーションを生徒間で検討したことによりチーム間での技能差を平均化したプ

レーに近づき、いかに3段攻撃に繋げるかを会話しながら取り組む事ができていた。

(3) 生徒が、主体的に学習に取り組めるような授業づくりや学習形態の工夫点について

・**グループ設定**：各チームは6名とし、コート内には4名、2名は自チームと相手チームの分析・観察者としての役割を与えた。各チームには、バレーボール経験者または運動能力が高い生徒1名を配置し、スモールティーチャーとしての役割を任せる事で、相互学習による学習理解の深まりを期待した。また、観察・分析者の視野をチーム外に広げて会話の題材を豊富にさせ、2名の分析者による自チームと相手チームの比較を基にした話題提供から思考の深まり及び技術の改善につながるチームでの話し合いを行うようにした。

・**展開をパターン化**：毎時の授業展開をある程度パターン化することによって、生徒同士で学習活動の準備等を指示し合える環境を目指した。また、シンプルなパターン化に加え、説明した内容は全てロイロノートの資料箱に文字(プリント)



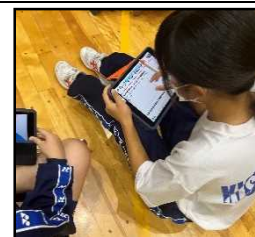
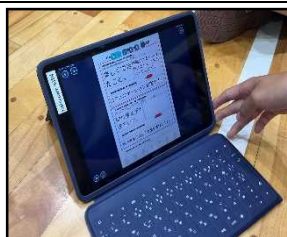
や動画で常備することにより、生徒が自分のタイミングで振り返って必要な知識について学習できる環境を用意した。しかしながら、新しく学ぶ時間と、振り返って疑問を追求する時間のバランスは難しく、学びを深めるための用途で活用できている生徒はわずかであった。生徒が自主的に授業を進めていくという点では、生徒同士で指示し合っチームを動かしたり、見学者が試合順を張り出してタイマー設定したりするなど、協力して行っていた。

・**3段攻撃の形式学習**：単元の最終時に目指す生徒の姿として生徒に「3段攻撃の攻防」を伝えてチームプレーを意識させた。1年次に基礎的な技能は学習済みではあるものの、コート内の状況を判断材料とした自分の動き方(ゲームインテリジェンス)については、理解度が非常に低い状態であったため、3段攻撃の形式を単元通して学習することとした。第1段階では、個人技能に不安のある生徒が流れを理解出来るようにするために、キャッチで繋ぐ3段攻撃を行った。第2段階では、安定したトスにより正確な攻撃へとつなげるために、2人目だけキャッチを許可した3段攻撃とした。1人目はアンダーレシーブ、オーバートスの技能向上、2人目は連携の動き方や3人目に繋げるトスの位置を思考させる時間の猶予を与え、3人目はスパイクで相手コートの空いているスペースを意識した攻撃を目指した。

連携スピードが遅いと目的が不明確になる事からチーム全体が「つまらない、思っているバレーボールと違う」と思い始めたタイミングで、それがなぜなのか疑問追求に移行させ、うまくいかない理由について、理解度を深める時間とした。キャッチ後すぐに行動することを意識させる必要はあったが、時数を重ねるごとに徐々に上達していき、生徒自身で声を掛け合い、2回目のキャッチをせずに3人目に繋げられるようになっていた。

・**単元序盤にバレーボールの醍醐味であるスパイク練習を計画**：授業前アンケートでスパイクを打ちたがっている生徒が多かったことから、最初にスパイク練習を行っ

た。また、運動能力の高い生徒が一人で全て終わらせてしまわないようにするための布石として、ボールを強く打ち込む爽快感や、連携しなければスパイクに繋がらないことを経験させた。そして、身長差や苦手意識のある生徒でも同じ楽しみを共有できるようにするために、ネットは2mと低めに設定ら始めることにした。



・ロイロノートによる振り返り(個人、チーム): 情報共有のため、授業の中で常にロイロノートの共有ノートを解放し、その中にチームの共有スペースを設置した。また、会話する機会のないチームとも間接的に理解を深めるため、自分のチームの課題や他のチームの課題を自由に観覧及びアドバイスできるようにした。

しかしながら、タブレットに集中しすぎている生徒にはボールの飛び交う中での作業を注意しなければならない部分があったため、作業スペースを安全に設定する工夫が必要であると感じた。

#### (4) 指導と評価の進め方について

生徒に配布した学習カード(ロイロノート内)には、自己分析をする赤枠の部分と、チーム分析をする青枠を設けた。この二つを明確に分けて記入させ、個人技能の習熟度や、チーム内での思考や知識の深まりを確認することができた。知識・技能、思考・判断・表現、チーム内での主体性など様々な点で評価の要素に活用できるものになった。加えて、生徒がロイロノートでいつでも前時の振り返りに目を通し、課題を意識することができたため、記入や思考が苦手な生徒も単元を通して積み重ねることができた。

また、生徒達の学習の深まりを確認するため、撮影した動画をカードに添付して提出させ、チーム課題の解決の材料にした。しかしながら用意した模範動画は、生徒が必要としている運動の角度や動きが明確に分かるものを用意しなければ学びの深まる教材にならないと感じた。

ICTの導入により、生徒の活動状況を動画や写真で振り返って評価できることや、ワークシートをその場で配布、回収が容易となること等、タブレットの活用は効率の良い指導と評価に繋がった。

・チーム分析 (前回課題したチーム課題、今後の授業目標から)  
◎良かった点 (課題との比較: できるようになったこと等) ◎改善点

2つのアダプテーションカードを使って試合を展開出来た。	カードを1つ減らす。声を出す。
-----------------------------	-----------------

↓

・次回の目標 (改善点からの具体的な解決策)  
◎チーム

みんなが楽しめるようにする。

---

・自己分析 (前回課題した個人課題、今後の授業目標から)  
◎良かった点 (課題との比較: できるようになったこと等) ◎改善点

アングラーで相手に返せることができた。	勢いのあるボールをよけてしまった。
---------------------	-------------------

↓

・次回の個人目標 (改善点からの具体的な解決策)

ボールをよけずに積極的に取りに行く。

(5) その他

今回の授業を通じて「共生を重視した授業」を研究協議するにあたっていくつかの課題が見えてきた。

- ①実技と思考・記述・意見交換の時間配分
- ②技能差をどのように補填するか
- ③技能差がある生徒全員が楽しめる授業計画
- ④共生の視点から考えたチームの人数
- ⑤球技に消極的な生徒をどう引き込むか

バレーボールのコート内人数によるゲームの構成分析

コート内人数	動き	思考場面	チームに求められる連携力	個人に求められる技能	三段攻撃でボールに触れる機会 (および一対一の確率)	ねらいとする部分	
6	複雑化	戦術の幅が広い	高い	低い	少ない(3/6回)	多人数連携力・チームインテリジェンス	男子・3年生
5					(3/5回)		
4					(3/4回)		
3					(1/1回)		
2	単純化	戦術の幅が狭い	低い	高い	多い(1回以上)	個人技能	男子

①は評価項目に合わせて1時間ごとに思考の時間や活動の時間の配分を考える等の意見や、活動量を確保した上で配分を考えるという意見があった。②、③は難しいことではあるが、生徒のつまずきがどこにあるのか多角的にアセスメントして理解することが肝要であると考えられる。④に関しては協議会でも様々な意見があった。それらを受け、授業者が生徒にどのような力をつけようとしているか、生徒が授業において何を学びたいと期待しているか、クラスの雰囲気や人間関係等を総合して変化させていくことが必要であると考えさせられた。上記表は単元計画を作成する中で自分なりにまとめたものではあるが、今後さらに検討が必要である。



## 体育科 学習指導案

日 時：令和 5 年 10 月 27 日（金）13：10～14：00  
 場 所：和歌山県立桐蔭高等学校 テニスコート  
 学 級：2 年 CDE 組 2 0 名（男子 2 0 名）  
 授業者：職名 教諭 中条 文弥

1 単元名 球技 ネット型「テニス」-映像解析から自己の動きを把握し、主体的に課題について考える-

2 指導にあたって

### (1) 生徒アンケート調査結果

2 年生 C D E 組（テニス選択生 2 0 名）でアンケートを行った結果、【体育学習が好きか】という質問に対しては、「はい」、「どちらかといえばはい」を半数以上の 1 8 名が回答しており、体育学習については好意的に受け止めている生徒が多いことが分かった。

【ネット型が好きか】という質問に対しては、「はい」「どちらかといえばはい」が 2 0 名で、全員がネット型に好意的な印象だった。

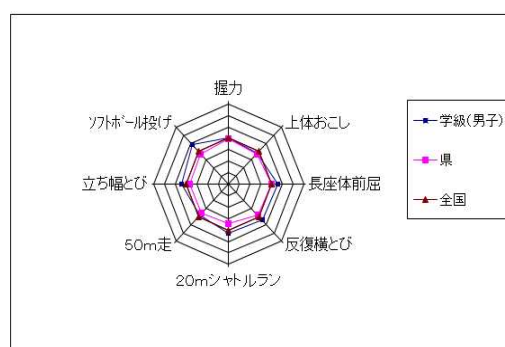
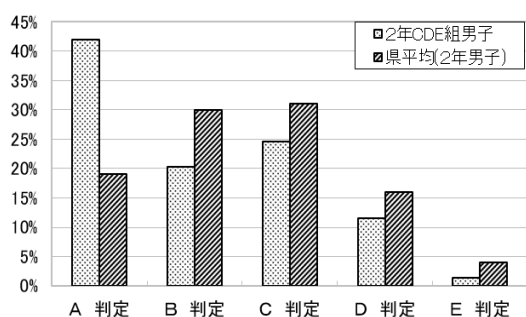
【体育学習が得意か】という質問に対しては、「どちらかといえばいいえ」が半数の 1 0 名で、運動に対して苦手な印象を持つ生徒も多いことがわかった。

### (2) 体力・運動能力調査結果

[令和 5 年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た生徒の実態]

[グラフ 1] 判別別割合

[図 1] 【T スコアによる全国比較図（男）】



上記「体力・運動力調査結果」[グラフ 1] から、和歌山県内の生徒に比べ A 判定が大きく上回っているため、2 年 CDE 組男子は高い運動能力を有していることが分かった。

### (3) 学習過程、学習形態の工夫

今回授業を行うテニスについては、ラケットを扱う巧緻性、ボールとの距離感、空

間把握能力など、必要とされる技能が多く、運動が得意な生徒でもゲームまで行うことが難しい競技だと考える。

学習形態は、運動が得意な生徒と苦手な生徒をバランスよく配置したグループを編成し、グループ活動を中心に主体的・対話的で深い学びになるよう展開する。

学習過程は、はじめにコートを狭くするなどの工夫を行ったミニゲームの中で、ラリーが続くという有用感を与える。次にボールに向かうフットワークを習得するために、コーンなどを用いて定位置に戻るなどの活動を取り入れる。

また、フォアハンドに着目した動作分析を行うため、生徒同士が撮影した映像からお互いの気付きを出し合う等、習得に繋がるよう仲間と協力し課題の発見・改善策へつなげる。

#### (4) 「球技の多様な楽しさや喜びを味わうこと」の実践に向けた指導

球技の楽しみ方は、勝敗を競ったりすることを通して得られる楽しさや喜びに加えて、体力や技能の程度等にかかわらず、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方の中で、それぞれの楽しみ方や喜びを味わうことである。

テニスを通して主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲や態度を育み、健康・安全を確保することができるようにする。

#### (5) 指導と評価の在り方

指導に際しては、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の内容をバランスよく指導し、自己に適したスポーツとの多様な関わり方を考える機会を充実させるとともに、仲間と連携し課題を見付け、考えたことを他者に伝える活動ができているか観察や学習カードを通して、評価する。

### 3 指導と評価の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・【別紙様式参照】

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。																	
	思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。																	
	学びに向かう力、人間性等	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。																	
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	授業づくりのポイント		
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらい確認・準備運動																・4人のグループをつくり一人一台タブレットを持参させ、自らの動きや技能の向上を認識させる。	
	10	オリエンテーション	フォアハンド・バックハンド	ミニゲーム	グループアップ				フォアハンド映像分析				グループ練習	グループ練習	フォアハンド映像撮影③	グループ練習	・初回の時点でも映像撮影を行うことで、上達の程度を各自が確かめることができるようにする。		
	20	ボール慣れゲーム	フォアハンド映像撮影①	ボール操作 フォアハンド・バックハンド	グループワーク 映像分析				フォアハンド映像撮影②	試合	試合	試合	グループワーク	試合	・グループワークでは映像を全員で確認しながら対象生徒が自らの動きについて解説する。良い部分や不足している部分や感覚をメンバーに伝える。ワークシートへ記入させる。				
	30				グループ練習	ミニゲーム	・グループワークを通して全員が発言する機会をつくる。												
	45	整理運動・学習の振り返り・次時の確認 (☆自らの動きを解説し、説明する)																・動画の保管はTeamsで行う。	
	50																		
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	評価方法	
	知														①	②			ワークシート
	技									②		①							観察、映像
	思										①				②				観察、ワークシート
単元の評価規準	知	①球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。 ②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。																	
	技	①ボールを相手側コートに緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ②ボールを回転に合わせて返球したりすることができる。																	
	思	①選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 ②球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。																	
	態	①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ③一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。																	

※知…「知識」、技…「技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」



4 本時について（晴天用、場所：テニスコート）

(1) 目標

(知識及び技能)

○ボールを相手側コートに緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができるようにする。

(2) 展開（本時：11／16時）

	学習内容・活動	○教師の指導・支援及び評価（☆）
導 入 5 分	1 【集合・整列・挨拶・健康観察】 2 【本時の説明】 3 【準備運動】（5分） ・下半身、肩周りを重点的に。	○各クラス1列縦隊
展 開 40 分	4 【グループアップ】（5分） ・ボレーボレー （2人組：ネットをはさまず）  5 【映像撮影】 ・各グループ1名ずつフォアハンドで行う ※ボール出しは正面から行う。 ホイッスルの合図で交代。時間（30秒）で区切る。  6 【グループワーク】 ・自らの動きの解説をするよう指示 ※グループ内で1名ずつ発表する ・各自プリントにまとめる  7 【ミニゲーム】 ダブルスで行う。3分間×2セット ※サーブは下から。エンドラインは、サービスラインより少し後ろに設定する。	○1グループ4人。1グループ1コートを使用する。  ○練習時間等は時間経過により指示を出す。生徒間のアドバイスを促す。 <b>☆評価(技能)</b> ボールを相手側コートに緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。※観察＋動画  ○各グループを巡視し、全員が表現できるように促す。  ○前回のミニゲームとは違うペアと組むように促す。
ま と め 5 分	8 【本時のまとめ】 全体発表をする。各グループ代表者1名が本時のまとめを発表（1グループ1分）	○授業の取り組みについて総括。 ○体調不良者、怪我人有無の確認。

4 本時について（雨天用、場所：体育館）

（1）目標

（知識及び技能）

○ボールを相手側コートに緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができるようにする。

（2）展開（本時：11／16時）

	学習内容・活動	○教師の指導・支援及び評価（☆）
導 入 5 分	<p>1 【集合・整列・挨拶・健康観察】</p> <p>2 【本時の説明】</p> <p>3 【準備運動】（5分）</p> <p>・下半身、肩周りを重点的に。</p>	○各クラス1列縦隊
展 開 40 分	<p>4 【グループアップ】（5分）</p> <p>・ボレーボレー （2人組：ネットをはさまず）</p> <p>5 【映像撮影】</p> <p>・各グループ1名ずつフォアハンドで ※ボール出しは正面から行う。 ホイッスルの合図で交代。時間で区切る。</p> <p>6 【グループワーク】</p> <p>・自らの動きの解説をするよう指示 ※グループ内で1名ずつ発表する ・プリントにまとめる</p> <p>7 【ミニゲーム】</p> <p>シングルスで行う。2分間×3セット エンドラインにマーカーを設置。打ったらマーカーまで戻る。</p>	<p>○簡易ネットを5つ配置する。 ネット1つに対して4人グループをつくる</p> <p>○練習時間等は時間経過により指示を出す。生徒間のアドバイスを促す。</p> <p><b>☆評価(技能)</b> ボールを相手側コートに緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。※観察＋動画</p> <p>○各グループを巡視し、全員が表現できるように促す。</p>
ま と め 5 分	<p>8 【本時のまとめ】</p> <p>全体発表をする。各グループ代表者1名が本時のまとめを発表（1グループ1分）</p>	<p>○授業の取り組みについて総括。</p> <p>○体調不良者、怪我人有無の確認。</p>

## 6 考察（成果と課題）

### （１）生徒アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

#### 生徒アンケート調査

	『はい』	どちらかといえ ば『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1.「テニス」は楽しかったですか。	18	2	0	0
2.「テニス」の学習で上手にできるようになったことがありますか。	17	3	0	0
3.「テニス」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。	11	9	0	0
4.「テニス」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか。	9	9	2	0
5.「テニス」の学習で友達と協力しあうことができましたか。	14	6	0	0

20名の内18名が、【「テニス」は楽しかったですか】に「はい」、残り2名も「どちらかといえば『はい』」と回答し、【「テニス」の学習で上手にできるようになったことがありますか】、【「テニス」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか】の各質問に対しても全員が「はい」、「どちらかといえば『はい』」に回答するという結果がでた。映像撮影から動作分析を行った結果、自身のフォアハンドの改善点に気付き、またそれを改善することでゲームの中でボールを返球できる喜びを感じたからだと考える。また、動作解析の際に、グループ活動での意見交流も行い、仲間に対話を重ねることも楽しいと思う要因だったと感じる。

一方で、【「テニス」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか】に2名の生徒が「どちらかといえば『いいえ』」に回答した。グループワークでは、互いの改善点等を話し合い、一人ずつ話すとしていたが、実際の授業では時間がとれないことがあり、話すことができていない生徒もいたように感じる。また、テニス経験者や得意な生徒は積極的に発言できるが、苦手な生徒は発言が少なく感じたので、動きのポイントやつまずきの事例等を参考に、自己の考えたことを他者に伝えることができる生徒の育成を図りたい。

## (2) 生徒の実態を踏まえた単元計画（学習過程）について

事前アンケートではほとんどの生徒が、ネット型に好意的な印象を持っていることが分かった。しかし、ネット型の他種目と比べてテニスは、相手からのボールを返球することが難しいと感じる。返球できなければネット型の楽しさを味わうことができないため、まずはラリーが続けられるようフォアハンドの習得を目標にし、ボールを返球する楽しさ、ゲームを行う楽しさを味わわせたいと考え単元計画を作成した。

フォアハンドを習得するために、客観的に自身の動きを観察してもらいたいと考え、タブレットを使った映像解析を取り入れた。その映像を仲間と共有し協力することで、課題の発見や改善につなぐことができたと感じる。

そしてゲームでは、初めはコートを狭くしたミニゲームから始め、徐々にコートを広くすることで、上達の過程に合わせた楽しみ方ができたと考える。

## (3) 生徒が、主体的に学習に取り組めるような授業づくりや学習形態の工夫点について

今回の授業ではフォアハンドの映像解析をグループで行い、全員が発表する機会を設定したいと考えたので、各班4名の少人数でグループを作成した。またフォアハンドの技能のチェックポイントを確認するため、5項目（足・位置、テイクバック、打点、フォロースルー、飛距離）を示し、それを学習カードとし、自ら評価をチェックできるようにした。その他にグループ活動での発言を促すように、どのような発言をしたかも学習カードに記録させるようにした。しかし実際に授業を行うと、活動の時間と学習カードを記入する時間のバランスが難しいと感じた。

また、フォアハンドの模範映像として、teamsアプリの授業グループにフォアハンド動画を投稿し、授業以外でも生徒が動画を閲覧できるようにした。さらに、配布プリントにも、フォアハンドの動作を細切れにしたプリントを配布し、常にフォアハンドについての正しい動きを意識してもらうよう心がけた。

## (4) 指導と評価の進め方について

技能を習得するためには、すべての授業時間を映像撮影ではなく、活動時間を確保し、ボールを打つ活動量を増やすこと、ミニゲーム等でテニスの楽しさを味わってもらうことが重要だと考え、単元計画を作成した。その中で各授業時間での、評価機会を明確にすることでやるべきことが明確化され、授業が行いやすくなったと感じた。一方で実際に授業を実施する中で、単元計画どおりに授業を進め、計画どおりに評価を行う難しさも感じた。単元計画を作成する段階で「これぐらいなら大丈夫だろうと」安直な考えではなく、生徒の発達の段階に応じた適切かつ綿密に計画を立てる重要性も学んだ。

学習カード（フォアハンドの評価規準）を生徒に配布することで、生徒自身も注意すべき点が明確になったと感じる。まず目標を設定し、評価規準を生徒と共有し、学習の見通しを持ち取り組ませることが大切だと改めて実感した。

目標を達成することはもちろんだが、自分自身の上達や、できないことができるよう

になる喜びを感じてもらえるよう、単元の前半と後半でフォアハンドの動画を記録した。授業を重ねる中でラリーが続くようになり、楽しく運動する様子が窺えたことがよかった。

#### (5) その他

授業を実施し感じたことの一つに ICT を活用する際の活動時間の確保であった。研究協議でも同じ質問があった。実際に授業を行う中で、タブレットの起動する時間や不具合などもあるため、多くの状況を想定し単元計画、授業計画をする必要があると感じた。また、単元計画を作成する際、すべての授業でタブレットを使用するのではなく、使用する日、しない日を分けメリハリをつけることを意識した。今後も ICT を活用する際の活動時間の確保については、授業を行いながら改善していきたいと考える。

そして、和歌山大学村瀬教授の指導助言の中で共生という言葉があった。性差、体格差、障害の有無などがある中で、全員が同じように運動を楽しめることの重要性についてであった。研究協議では、全員が楽しめるためのミニゲームの方法やフルコートでのゲームにつなげる方法としてワンバウンドではなくツーバウンドまで返球可能としたり、人数を増やしたり、打ったらマーカーまで戻ったりするなどといった具体的な助言もいただいた。

この他にも共生という視点で授業を考える際に、今回の授業では男子のみで実施したため、まずは男女共習を目指したい。その中で経験者の生徒が少し退屈する場面や、未経験者の生徒ができないことによりつまらなさを感じるものが少なくなるよう、ルール等を配慮する必要もあると感じた。ゲームのルールを教師が主導し決めるのではなく、生徒間でルールを考えさせ、実力差があると判断した場合は、自分たちでその差を埋める調整のため交渉するといったことも大切だと思う。それらを取りり入れた学習を行うことにより、共生の視点を持たせることができ、生涯にわたりスポーツを楽しむ資質・能力を育成していきたい。

今後も今回の村瀬教授の助言をはじめ、授業を実施し感じた改善点、研究協議での意見を参考に今後の授業改善に取り組もうと考える。

## 体育科学習指導案

日 時：令和5年11月9日（木）13：20～14：05
場 所：和歌山大学教育学部附属特別支援学校 体育館
学 部：小学部1～6年 15名（男子10名 女子5名）
授業者：職名 教諭 藪本 安有美

1 単元名 体づくり運動・ボールを使った運動やゲーム 「ボールで遊ぼう」

2 指導にあたって

本校小学部には1～6年生15名が在籍しており、2学年ごとに学級を編制している。学部全体で学習する時間は週4～5時間、そのうち体育は週2時間行っている。1～6学年という生活年齢の幅に加え、発達段階や運動経験、体力についても実態の幅は広いが共に学習する機会があることで下学年が上学年に憧れたり、上学年は下学年の手本となることを意識したり、休憩時間に一緒に鬼ごっこをしたりと異学年が自然に関わることができている。

体育科の授業ではめあてを意識したり、学習した内容を自分の動きに生かせたりしている児童を『今日のキラリさん』として紹介している。紹介された児童は嬉しそうな表情を見せ、みんなの前で動きを発表することを喜んでいる。他の児童も友だちの姿に拍手しながらも自分も紹介されたいという気持ちから意欲的に取り組む姿が見られる。

本校小学部の体育では次の3点を意識して取り組んでいる。

まず1点目は「児童にとって、することが分かる、やってみたくなる学習」である。導入の際に、授業の予定やめあてを伝えるものの、注視することが苦手であったり、見るポイントが分かりづらかったりする弱視の児童は学習内容を理解していないように見受けられた。理解が曖昧であると意欲も低く、その場にいるだけになってしまう。することが分かり、児童がやってみたい気持ちを持てるよう、視覚教材を活用したり、教師や上学年が手本を示したり、一緒に動いて見通しが持てるようにしながら、学習への意欲が高まることをめざしている。

2点目は「さまざまな運動を経験すること」である。児童の中には階段の昇降で手すりを頼りにしたり、1段に両足ずつ置きながら降りたりしている子や、両手で短なわが回せなかったり、回せても跳ぶタイミングが合わなかったりする子がいる。経験していない動きに対して、どのように身体を動かしたらよいかのかが難しいようで、新たな動きを習得するには時間を要することが多い。今年度の新体力テストの結果からも、上体起こしでは2回未満が4名（26.7%）、ソフトボール投げの3m以下が4名（26.7%）と児童の体幹の弱さや協調運動の苦手さなどが伺える。

3点目は「運動量を確保すること」である。児童の登下校はスクールバスと保護者、放課後デイサービスの送迎で、各教室、体育館、ランチルームも1階に配置されていることから、各家庭が意図的に運動を行わないと児童の運動する機会は学校での学習と休憩時間に限られる。姿勢の保持が難しい児童や、集中して学習に取り組める時間が短い児童もいるため、体づくりを意識して、体力の向上を図る必要があることから、運動量の確保は欠

かせないと考えている。

本単元では、「体づくり運動」と「ボールを使った運動やゲーム」の内容を合わせて行う。ボールを投げる経験がまだ少ないため、持ちやすく、当たっても痛くない玉入れの布ボールを使用する。「ごろピカゲーム」で雷と見立てた布ボールを相手陣地に投げ入れ、勝敗を競うゲームに取り組むことで、“投げる”ことをたくさん経験できるようにしたい。そして、「ボールおにごっこ」も並行して行い、ルールを徐々に理解しながら、当てられないように逃げたり、当てたい思いを持って必死に追いかけてたりして、ゲームを楽しみながらしっかり運動できるようにしたいと考えている。また、攻め方や逃げ方など自由に自分でいろいろ試すことのできるゲームでもある。本校の研究テーマ「考える子を育てる」も意識しながら、子どもたちの主体的に取り組む態度も育てていきたい。

### 3 指導と評価の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・【別紙様式参照】

#### 4 本時について

##### (1) 目標

(知識及び技能) ボールを使った運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等) ゲームを楽しみながら、考えたことや気付いたことなどを友だちに伝えようとするようにする。

(学びに向かう力、人間性等) きまりを守り、友だちと安全に楽しく運動しようとするようにする。

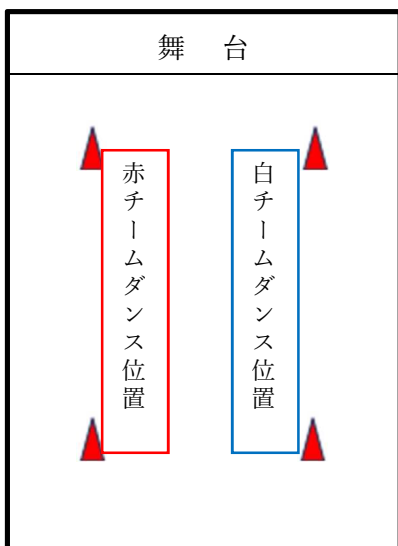
##### (2) 展開 (本時：4 / 5時)

	学習内容・活動	○教師の指導・支援及び評価 (☆)
導	1. 準備運動 (ダンス→マラソン)  あいさつ 今日の予定を知る	○マラソンでは追い越す際に児童の接触がないよう留意し、終了後は水分補給の時間を確保する。 ○注目が難しい児童は、T2、T3が個別に支援を行う。
入	2. ごろピカゲーム	☆友だちとゲームをすることを楽しもうとしている。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○ゲーム中に曲を流し、曲調の変化を感じ取りながら、ゲームに取り組めるようにする。

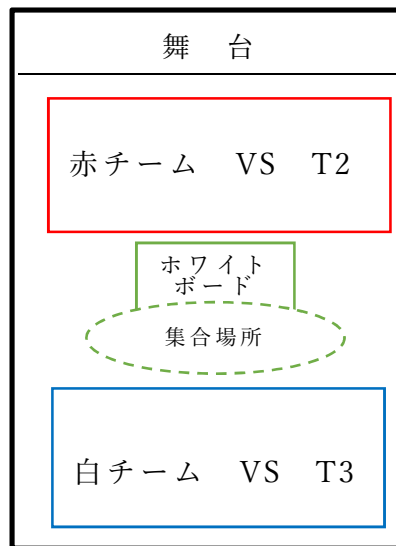
展 開	<p>3. ボールおにごっこ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>めあて 赤「オニになって あてよう」 白「にげよう、 よけよう」</p> </div> <p>①教師とゲームをする ・赤チーム（オニ）VS T2 ・T3（オニ）VS 白チーム</p> <p>②ゲーム1回目</p> <p>③みてみてタイム (振り返り)</p> <p>④ゲーム2回目</p> <p>4. まとめ 次時の予告 あいさつ 片付け</p>	<p>○オニの動きをするチームと、オニから逃げるチームに分かれ、自分のチームがどちらなのか、教師（T2またはT3）とも確認して行うようにする。</p> <p>○“よける”の言葉の意味が理解できるよう、動きとともに伝えるようにする。</p> <p>○「どんなオニになる?」「どうやってにげる?」など、チームで話し合ってから対教師とのゲームに取り組むようにし、自分のしたい動きをイメージしやすいようにする。</p> <p>☆自分の役割（オニ or にげる）を理解し、体を動かすことができる。【知識・技能】</p> <p>○自分の動きを紹介する時間を設け、おすすめポイントを友だちに伝えられるようにする。</p> <p>☆投げ方やゲームについて、気付いたことや思ったことを伝えている。【思考・判断・表現】</p> <p>○ゲーム1回目と攻守を入れ替え、楽しめるようにする。</p> <p>○今日の感想を聞く。</p>
	<p>準備物 ホワイトボード、赤玉、白玉、バケツ、コーン、コーンバー、CD2枚、CDデッキ2台、提示カード（チーム、赤白帽、役割）、スズランテープ、タイマー、○×ブザー・台（跳び箱）2セット、マイク、ベル、（児童：水筒、赤白帽）</p>	

配置図

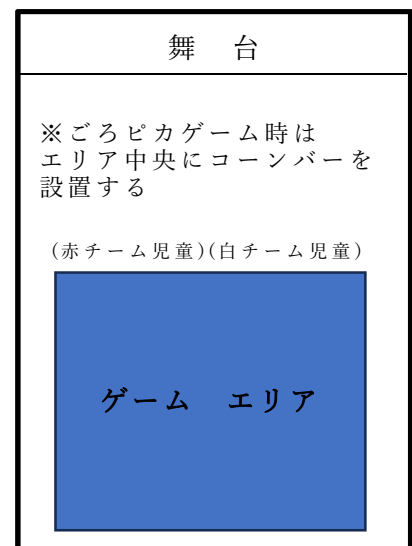
1. 準備運動



3. チームでの活動



2. 3. ゲーム時







	A	B	C	D	E	F	G	H
実態	まわりの人を見て活動することが多い。	話を聞くよりも自分の思いを言いたい気持ち強い。	ルール理解◎。負けることに対して不安が高く、勝敗のある遊びに参加したがない。	ルール理解◎。自分のペースで動くことが多い。	自分の行動に自信がなく、教師に確認することが多い。追視が難しい。(弱視)	ルール理解◎。説明の動きを取り入れようとする。	ルール理解◎。勝敗を気にせず、楽しくゲームに参加できる。	投げやすい方が利き手(右手)であることにまだ気づいていないよう。(弱視)
目標	少ない方が勝ちとわかる。	少ない方が勝ちとわかる。	勝敗のあるゲームに参加することに慣れる。	さまざまな方法を知り、自分がやってみたい動きをしようとする。	教師や友だちの応援を受けてゲームに参加できる時間を増やす。	さまざまな方法を知り、自分がやってみたい動きをしようとする。	少ない方が勝ちとわかる。	投げやすさを自分で感じて右手で投げることが増える。

	I	J	K	L	M	N	O
実態	体調により、学習への意欲変動が大きい。ボールを投げる事には自信がある。	相手陣地に玉を投げ入れることは理解。ゲームに楽しく参加できる。	友だちの様子が気になる等、学習に集中できていない時がある。(弱視)	ゲームでは勝ちたい気持ち強い。ボールおにで当てられると泣く。	ルール理解◎。骨折のためマラソン、ダンスのみ参加。	拾った玉を中央まで走り、投げている。追視が難しい。(弱視)	ゲームに対し、勝つ方法を考えようとする。
目標	少ない方が勝ちとわかる。	少ない方が勝ちとわかる。	自分の役割を理解してゲームに参加することができる。	ゲームで負けたら、当てられなくても次の機会に気持ちを向けられるようになる。	友だちの動きを見て、思ったことを発表しようとする。	少ない方が勝ちとわかる。	友だちの動きのよいに気づき、動きや言葉で説明しようとする。

## 6 考察（成果と課題）

### （1）児童の実態を踏まえた単元計画（学習過程）について

#### （成果）

本校小学部では、「2 指導にあたって」に記述したとおり、3つのねらい「児童にとって、することがわかる、やってみたくなる学習」「さまざまな運動を経験すること」「運動量を確保すること」を意識して取り組んでいる。まず、導入では準備運動として運動会で実施したダンスと周回走を行った。運動会の時とは異なる対面の隊形で行ってみたが、互いの動きや表情を見ながらこやかに、意欲的に取り組んでいた。主運動として①「ごろピカゲーム」と②「ボールおにごっこ」を行ったが、①では、自分の陣地に投げ入れられるボールを拾い、投げる動作を多く経験することができた。②においても逃げたり、追いかけてながら狙って玉を投げたりと運動量の確保ができたと考えている。投げている様子を見てみると、①では相手の陣地に投げる際に、素早く投げ入れる子、遠くでも自分のいる場所から投げる子、一度にたくさん投げる子など、さまざまな投げ方を見られた。日頃、休憩などでボール遊びをほとんどしない子たちではあるが、鬼となった子がフェイントをかけたたり、両手で投げている子が利き手で繰り返し投げたりするようになるなど、今回の運動経験が体の動かし方を自然に獲得するきっかけになったように考える。



#### （課題）

②では、ゲームのルールを子どもたちが理解しやすいことをねらい、第1時ではオニを1名とし、第2時では2名のオニが交代でエリアに出ていく様子を見ることができるようにした。第3時から、チーム全員がオニの動きが分かるよう全員の交代制としたが、児童15名中2名はエリアにオニとして出ていった際に、周りの様子から一緒に逃げる動きを始めることがあった。前時に欠席していたことも要因として挙げられるが、ルールを分かりやすくしていくことは今後も意識して取り組んでいく

### （2）児童が主体的に学習に取り組めるような授業づくりや学習形態の工夫点について

#### （成果）

①では、互いのエリアの境界線として設置した中央線を示すコーンやコーンバー上を玉が通るようにすることをルールとして伝えた。すると、遠くへ投げるのが苦手と感じているからか、センターラインまで走り寄って投げ子や足元近くにある玉を拾って遠くへ投げることを楽しむ子、玉をたくさん集めてから投げる子など、投げ方や投げる場所、投げる玉の数など、子どもたちは自分のしてみたい方法を考え、実践している様子が見られた。どの子も



玉を“雷”とイメージできたことから、玉を相手陣地に入れようと積極的に動くことができているように思う。今後も学習のねらいや目的を明確にし、子どもたちが自ら意欲的に取り組めるようにしていきたい。

(課題)

②では、オニからボールを当てられた児童が再びゲームを楽しめるよう、復活ボタンを体育館前方2か所に設置した。当てられても復活できることに加え、ボタンを押すことも楽しめたが、第3時ではエリア内の子どもと復活ボタンを押して戻ってきた子どもが接触し、転倒するという事態が起きた。その後、ボタンを置く位置やエリアに入る経路の検討、エリア入口に教師を配置すること、児童にも左右確認を促す等、対策を講じたことで、それ以降は接触することなく実施できた。これからも児童の動きを予測しながら安全に学習を進めていきたいと考える。



### (3) 指導と評価の進め方について

(成果)

小学部 15名のうち9名が眼鏡を着用し、弱視の児童もいることから、チームでゲームする際は帽子を活用したり、玉の色をゲームに合わせて変更(①のゲームでは床にある玉が見やすいように白、②の場合は体操服に同化しないよう赤を使う)したりと子どもたちが学習しやすい環境づくりを目指した。今後も見え方についての配慮は継続して行っていきたい。今回は、①と②の内容を組み合わせ、徐々に主となる学習を①から②に移行していく単元を組み立てた。②は走りながら玉を投げるといった動作が必要となるが、①のゲームは②の導入に用いるゲームとして適していると考え、計画した。結果、子どもたちは、ルールの違いも理解しつつ、2つのゲームを楽しむことができていたように思う。今後も学習で組み合わせる内容についてはさまざまな方法を検討していきたい。



(課題)

ゲームの参加の仕方については低学年の児童も理解できていたが、①のゲームの勝敗については玉の数が少ない方が勝ちと言う理解は難しかったようである。日頃のゲームでは数の多い方が勝ちという経験を多く積んできたことが推測されるが、さまざまなゲームやその勝敗に触れられるようにし、子どもたちがじっくり考えられるような設定、説明の方法を検討していきたいと思う。



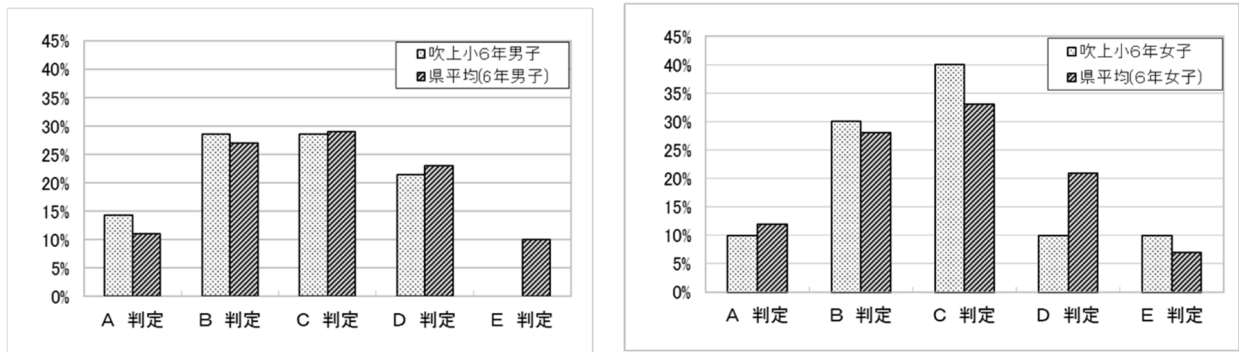
体力向上  
プログラムモデル校  
取組事例

## 体力向上プログラムモデル校取組報告書

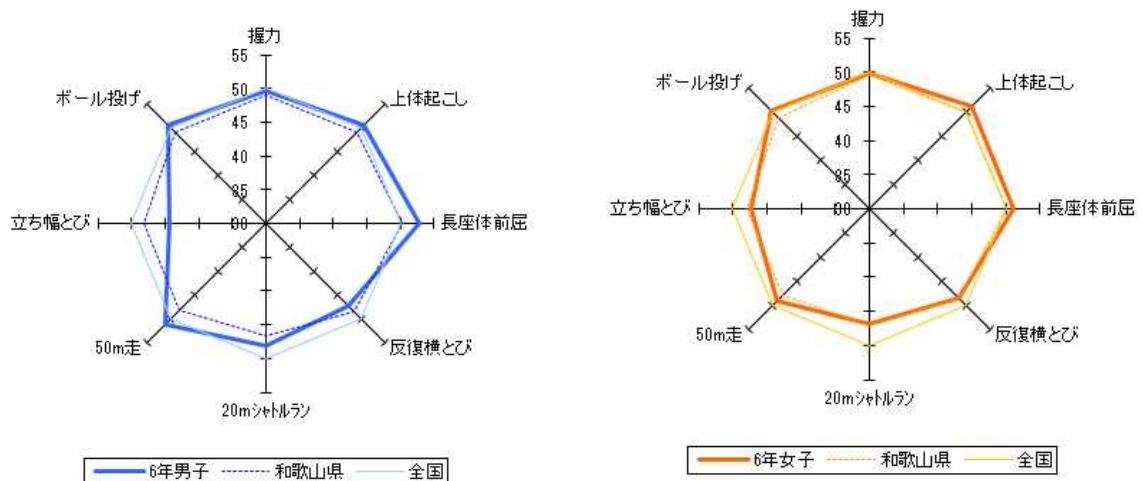
日 時：令和 5 年 9 月 4 日（月） 9：00～10：30  
 場 所：和歌山市立吹上小学校  
 学 級：6 年  
 授業者：職名 教諭 東山 諒

〔令和 5 年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た児童の実態〕

〔グラフ 1〕 判定別割合（男女別）



〔図 1〕 【T スコアによる全国比較図（男女別）】



### 1 児童の実態（体力・運動能力調査結果）から見えてくる課題

本校の項目別 T スコアでみると、T スコアが 45 を下回っているものは、男子 5 項目、女子 6 項目であった。T スコア 50 を上回っているものは男子 28 項目、女子 17 項目あり、昨年度に比べて体力が向上していることがわかった。握力に課題を感じるが、上体起こし、長座体前屈、50m 走は、全体的に記録がよかった。

本学級においても、T スコアが 50 を上回っている項目が多くあり、判定別割合においても、特に D・E 判定者が多いわけではない。走ることは様々な運動で活用できるため、走力をさらに伸ばすことのできるような取組を行っていきたい。

### 2 選択した項目 50m 走

3 体力向上に向けて取り組んだ単元名 短距離走

4 指導と評価の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・【別紙様式参照】

5 その他の体力向上に向けた取組

体育の授業時間の中で個々に応じたためあての設定を行い、学習を進めた。また、ジャンプ力を鍛えるための目標物を設置したり、握力を高めるために握力計を廊下に置いて休憩時間にいつでも測定できる環境をつくったりして体力向上を図る場を設定してきた。

単元の目標		知識及び技能		短距離走では、競争の行い方を知るとともに、一定の距離を全力で走ることができるようにする。					
		思考力、判断力、表現力等		自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。					
		学びに向かう力、人間性等		運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。					
時	1	2	3	4	5	6	授業づくりのポイント		
ねらい	競争方法を確認させるようにする。	素早い動きを身に付けさせる。	チームで選んだ練習を競争に生かすようにする。		学習してきたことを生かし、自己記録に挑ませるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備運動を毎時間固定し、反復して練習を行えるようにした。</li> <li>児童が意欲的に自主的に取り組めるように、ハンデ走を行った。</li> </ul>			
学習の流れ	0	1、準備運動 ドリル(ジャンプ、ケンケン、スキップ) スタートのコツの確認 変形ダッシュ							
	10	2、ラダーで動きづくり		2、ミニコーンをつかったゲーム		グループで体を動かす。			
	20	3、各グループで課題に応じた方法を選んで練習する。							
	30	2、オリエンテーション 活動内容の確認 競争の仕方の確認						50m走の記録測定	
	40	4、グループ対抗で競争する。							
45	5、ふりかえり								
評価機会		1	2	3	4	5	6	評価方法	
	知			②	③	①		観察・カード	
	思				①	②		観察・カード	
態	①②	④	③					観察・カード	
単元の評価規準	知	<ul style="list-style-type: none"> <li>①競争の行い方について、言ったり書いたりする。</li> <li>②スタンディングスタートから、素早く走り始めることができる。</li> <li>③体を軽く前傾させて全力で走ることができる。</li> </ul>							
	思	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自己や仲間の走りの様子を確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己やグループの課題を見付け、自己のチームに適した練習方法を選ぼうとしている。</li> <li>②活動後に、運動のポイント、学習の記録、仲間の動きのよさなどを学習カードに書いたり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりしている。</li> </ul>							
	態	<ul style="list-style-type: none"> <li>①短距離走に積極的に取り組もうとしている。</li> <li>②用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たそうとしている。</li> <li>③課題を見付けたり、その解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。</li> <li>④短距離走の場の危険物を取り除いたり、場を整備したりするとともに、用具の安全に気を配っている。</li> </ul>							

※知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」



## 6 考察（成果と課題）

### （1）取組の成果について①【50m走】測定結果から

	県平均	全国平均
6年	8.97	8.84
中1	8.53	8.38

	平均	Tスコア(全国同 学年比較)
1回目	8.73	51.43
2回目	8.63	52.72

	県平均	全国平均
6年	9.32	9.16
中1	9.14	8.98

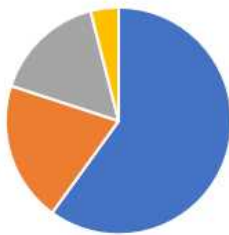
	平均	Tスコア(全国同 学年比較)
1回目	9.18	49.71
2回目	9.05	51.54

九鬼巧選手を招聘し、走力アップ教室で3つのポイントを教えてもらった。「①腕の振りは小さく速く振る。」「②地面につくのは足の指でつく。」「③足を速く前にもってくる。」という3つのことである。このことを測定前のアップの時から意識させた。

また、スタートのコツとして、「①足を引いて下を向き、引いた方の足と反対側の方の腕を引く。」「②体重のかけ方として、前：後＝7：3の割合で姿勢を保つ。」「③スタートしてからの最初の5mは下を向く。」これら3つのことを意識させるようなスタート練習を数回行い、体にスタート姿勢を慣れさせてから測定を行った。

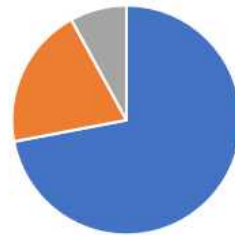
ウォーミングアップでラダーを使った運動やミニコーンを集めるゲームをおこなったことで、素早く体を動かす感覚を身に付けることを目指した。

体を動かすことが好きですか？



■ 「はい」 ■ 「どちらかと言えば「はい」  
■ 「どちらかと言えば「いいえ」」 ■ 「いいえ」

今回学習した『陸上運動』は楽しかったですか。

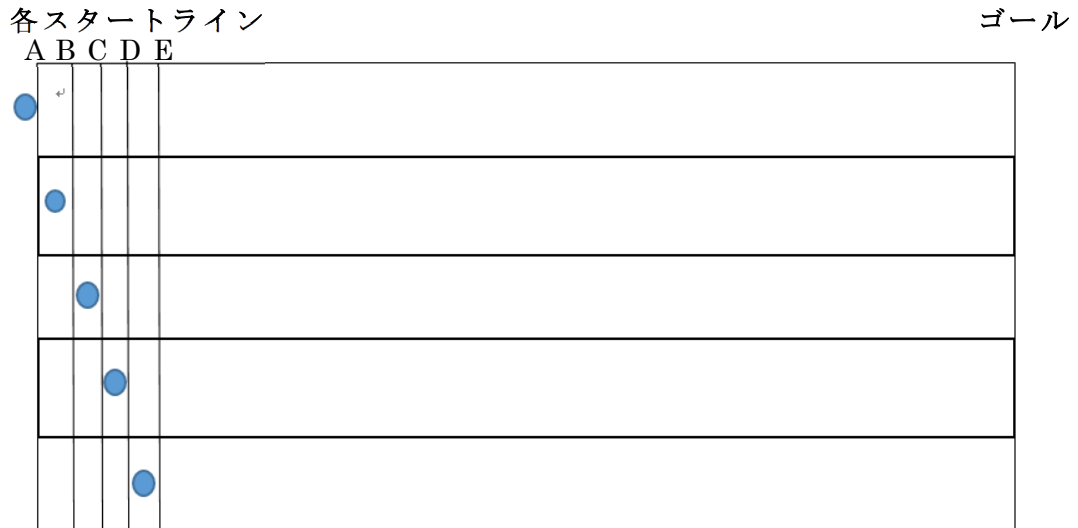


■ 「はい」 ■ 「どちらかと言えば「はい」  
■ 「どちらかと言えば「いいえ」」 ■ 「いいえ」

授業を終えてからのアンケート結果において、「体を動かすことが好き」と回答した児童が少し増えた。今回行った短距離走ゲームは児童にとって、ただ繰り返し走るだけの授業よりも楽しかったと感じたようである。楽しかったと回答した児童の意見として、チームで作戦を立てたこと、自分が活躍できたこと、絶対に勝てないと思っていた友達に勝つことができたことなどが挙げられる。

(2) 陸上運動で行った効果的な取組について

今回陸上運動で行った取組は、5人1チームでスタート位置を変えて走る短距離走ゲームである。距離は、25m程度でA,B,C,D,Eのスタート位置をそれぞれ設定している。スタート位置は約1.5mずつ離し、各チーム5人のメンバーで誰がどの位置から、どの順番で走るのかを相談する。1位5P、2位4P、3位3P、4位2P、5位1Pでチームの合計点が一番高いチームが勝利する。ただ走るだけではなく、作戦を立てる必要があること、走る相手が自分より速い児童でもスタート位置の関係で勝つことがあるのも楽しめるポイントであると考えた。



(考察)

初めは、走ると聞いて嫌な表情をしていた児童もいたが、短距離走ゲームのルール説明を行ったところ、興味を持つようになった。ゲームを始めたころは、がむしゃらにただ走り切ることを考えていたチームが多かったが、ポイントの高いチームは何がよかったのかをみんなで考えたことで、作戦を立てること、相手のチームの戦略を読むことが大切であるとわかり、そこに力を入れるようになった。特に本学級の児童は、作戦を立てるなど、思考することが好きな児童が多いので、意欲を持って取り組んでいた。また、授業の中で、走ることに自信がなかった児童がクラスで一番速い児童に先行した時には、クラスの中で拍手が自然と起こった。その児童の振り返りにも、「みんなから応援されてうれしかった。」と書いていた。

今回の授業を終えてから50m走の測定を行った結果、前回測定したときよりも記録が良くなっている児童が多くなっていた。その要因として、九鬼巧選手に教えてもらった速く走るためのポイントが生かされたことが考えられる。短距離走ゲームでは、距離が25m程度とそこまで長くないため、いかに短い距離の間で速く走れるかが求められる。授業の中でも、九鬼巧選手に教えてもらったスタートのポイントを何度も確認し、練習してきた。各チームの自主練習の時間にもポイントを意識した練習が行われていた。特にポイントの3つ目である「最初の5mは下を向くことを意識する」が大切であると児童も感じていた様子だった。短い距離を速く走るには、重心を低くする必要がある。速く走るフォームは短距離走ゲームを通して、しっかりと身に付いた。その結果、

50m走のスタートダッシュが前回の測定よりも速くなり、記録が良くなったことに繋がったのではないかと思います。

走るという、どのスポーツにも必要になる動きを、児童は今回の授業で楽しく向上させることができた。今回の測定で記録が良くなかった児童にとっても、授業で身に付けた動きやポイントは今後様々な運動をする場面でもきっと生かされると思う。めあてがはっきり持っていない学習ではなく、自分達で速く走るにはどうすれば良いかを考えて、それを実践できたことが今回の授業の大きな成果であると考えている。

#### 単元学習前後のアンケート

##### 児童アンケート調査（単元学習前）

アンケート内容	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
1.体を動かすことが好きですか。	13	6	4	2
2.1で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた児童生徒の理由	理由 ・走るのが苦手 ・運動が嫌い			
3.今回学習する「陸上運動」は好きですか。	12	7	4	2

##### 児童アンケート調査（単元学習後）

アンケート内容	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
1.体を動かすことが好きですか。	15	5	4	1
2.1で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた児童生徒の理由	理由 ・走るのが嫌い ・体を動かすのがしんどい			
3.今回学習した「陸上運動」は楽しかったですか。	18	5	2	0
4.3の質問の具体的な理由を書いてください。	・チームで作戦を立てた。 ・自分が活躍できた ・絶対に勝てないと思っていた友達に勝つことができた。			
5.体育の授業時間以外で自主的に体力を高める運動に取り組みましたか。	16	4	2	3

# 武道推進モデル校

## 取組事例

多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化  
 武道推進モデル校 研究報告

なぎなた	九度山町立九度山中学校
------	-------------

●実践研究のねらい

- 振り方・構え・足さばき・姿勢などの既習事項を用いて攻防を展開するための技術の定着を図る。
- 防具の装着や片付け、礼法、所作の学習を通して、伝統的な考え方や文化に触れる。
- 実技テストや試合など学習の成果を披露する場を設定する。
- 専門的な知識・技能を有する外部指導者と十分連携し、教員の指導力向上につなげるとともに安全面への配慮や生徒の発達の段階を考慮した指導の充実を図る。

●多様な武道の指導モデル 第3学年（2学級37名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
種目	なぎなた														
学習の流れ	オリエンテーション	導入（体づくり運動、礼法、健康観察、本時の学習の見通し）													
		足さばき、構え、振り方												実技テスト	試合
		1、2年の復習	防具（すね当て・垂れ）のつけ方	防具（垂れ・胴）のつけ方	防具（胴・小手）のつけ方	防具（手ぬぐい・面）のつけ方	防具（すべて）のつけ方								
		防具をつけての打ち返し													
		まとめ（本時の振り返り、次時の連絡、挨拶、片付け）													

●指導の工夫

- 1 効果的に指導するための工夫
  - 学年やクラスの実態を把握し、授業時数を考慮し学習の内容を計画する。
  - 視覚的に分かりやすいよう映像やパワーポイントの利用等、ICTを活用した指導を行う。
  - 武道に対する理解をより深め、学習意欲の向上につなげるため、外部指導者による模範指導を受ける。
  - 外部指導者との連携を密に行うい、効果的な指導に努める。
- 2 生徒の安全を確保するための工夫
  - 導入部分で体づくり運動を取り入れ、ウォーミングアップをしっかりと行う。
  - 礼儀作法や伝統的行動様式について、常に意識した指導を行う。
  - 打ち返しをするときは一定の距離を空けて行い、相手や周りをよく観察させる。

## ●授業の様子



【防具の装着】

防具の基礎知識について学習した上で、防具の着脱に取り組んだ。各自で面を装着している様子。



【防具をつけての打ち返し】

すべての防具をつけ、二人一組で相対して打ち返しを行っている様子。

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>																														
<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>高まった</td><td>21.9%</td></tr> <tr><td>やや高まった</td><td>62.5%</td></tr> <tr><td>あまり高まらなかった</td><td>15.6%</td></tr> <tr><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	高まった	21.9%	やや高まった	62.5%	あまり高まらなかった	15.6%	0.0%	0.0%	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>深まった</td><td>31.3%</td></tr> <tr><td>やや深まった</td><td>59.4%</td></tr> <tr><td>あまり深まらなかった</td><td>9.4%</td></tr> <tr><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	深まった	31.3%	やや深まった	59.4%	あまり深まらなかった	9.4%	0.0%	0.0%	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>楽しい</td><td>21.9%</td></tr> <tr><td>やや楽しい</td><td>65.6%</td></tr> <tr><td>あまり楽しくない</td><td>12.5%</td></tr> <tr><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	楽しい	21.9%	やや楽しい	65.6%	あまり楽しくない	12.5%	0.0%	0.0%
Category	Percentage																															
高まった	21.9%																															
やや高まった	62.5%																															
あまり高まらなかった	15.6%																															
0.0%	0.0%																															
Category	Percentage																															
深まった	31.3%																															
やや深まった	59.4%																															
あまり深まらなかった	9.4%																															
0.0%	0.0%																															
Category	Percentage																															
楽しい	21.9%																															
やや楽しい	65.6%																															
あまり楽しくない	12.5%																															
0.0%	0.0%																															
<p>○ 初めの方は防具などうまくつけられるか心配だったけど、丁寧に教えてくださったおかげでつけられるようになりました。授業で習った防具のつけ方や打ち方を高校で生かしていこうと思います。</p> <p>○ 最初のころはなぎなたなんてできるのかなと不安でしたが、授業を重ねていくとだんだんなぎなたの魅力を感じることができました。1年生では打ち返しの打ち方や受け方、2年生ではリズムに合わせて打ち返しや面打ちをし、3年生ではなぎなたの防具のつけ方をマスターすることができました。高校でも武道をすることがあると思うので、そのときには中学校で習ったことを活かしていきたいと思います。</p>																																

## ●成果

- タイミングよく動作をすることで、無駄な動きが少なくなり、静と動のメリハリをつけることができた。
- 相手とタイミングを合わせたりずらしたりすることで、相手の動きを客観的に見ることができた。
- 防具の装着時、生徒同士が教え合い、協力し合う姿が見られた。
- 防具を装着することによって、競技選手と同じ条件で打ち返しを体験することができた。

## ●課題

- 振りの動作に集中するあまり、基本動作がおろそかになったり発声が小さくなったりしてしまう生徒がいる。
- 動きの途中で、防具が外れたり取れたりしてしまう生徒がいた。
- 防具の準備・装着・片付けに多くの時間がかかってしまい、打ち返しの時間があまりとれなかった。
- 学習の成果を披露するための試合競技の時間をあまりとることができなかった。
- 外部指導者との連携をさらに強化し、指導の充実を図っていきたい。

# 多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化 武道推進モデル校 研究報告

合気道	田辺市立上秋津中学校
-----	------------

## ●実践研究のねらい

- 合気道で、基本動作、受け身、対人的技能を3年間継続して学び、ペアワークでより発展的な受け身の習得を図ることによって、技能の定着を図る。
- 外部指導者による専門的な指導、TTとの連携で生徒の技知識・技能の習得を目指す。指導、援助の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。

## ●多様な武道の指導モデル 第3学年（1学級26名）

	1	2	3	4	5	6	7	8
種目		合気道						
		導入（あいさつ、健康観察、翻字の目標・本時の学習の見通し）						
		準備運動						
学習の流れ	オリエンテーション（合気道）	基本動作・受け身の学習					学習のまとめ	
		前時の復習（対人的技能の復習）						
		対人的技能の学習（技の習得）						
		振り返り						

## ●指導の工夫

- 1 効果的に指導するための工夫
  - 2時間続きの授業を主とし、継続した授業時間の活用、時間の効率的な使い方をし、技の反復、応用の定着を図った。
  - 外部指導者の模範となる技、受け身を通して視覚的に学習し、技の練習の際には教員を含め、3人の巡回指導で細やかな指導を行った。
- 2 生徒の安全を確保するための工夫
  - 本校には道場がないため、体育館を使用して武道の授業を行っている。本校所有の、畳50畳以外にも市からマットを100枚借り、学習効率と安全を確保できるように工夫している。
  - 「受け」と「取り」位置を揃えとともに、外部指導者2名、教員1名の3名での巡回を通して、隣接する生徒同士の間隔を確保する等、技をかける際の安全を意識した。
  - 受け身の重要性と、技をかける際の相手を思いやる精神を指導した。



## ●授業の様子



### 【 合気道の実技授業 】

「片手持ち小手返し」からの「極め」のポイントを外部指導者が説明し、生徒が学んでいる様子。



### 【 人物学習 】

田辺市立図書館よりゲストティーチャーを招いて合気道の創始者「植芝盛平」について学習をした。

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>
<p>0.0% 0.0%</p> <p>23.1%</p> <p>76.9%</p> <p>■高まった ■やや高まった ■あまり高まらなかった ■高まらなかった</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>26.9%</p> <p>73.1%</p> <p>■深まった ■やや深まった ■あまり深まらなかった ■深まらなかった</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>15.4%</p> <p>84.6%</p> <p>■楽しい ■やや楽しい ■あまり楽しくない ■楽しくない</p>
<p>○ 技を見たときに怖いと思いましたが、やってみると楽しかったです。</p> <p>○ 五味田先生が楽しく教えてくれたおかげで合気道が好きになりました。</p> <p>○ 礼儀・作法も知れてよかったです。</p> <p>○ もっといろんな技を教えてもらいたくなりました。</p>		

## ●成果

<p>○ 3年間の合気道の授業を通して相手を敬う精神と基本的な技能を段階的に積み上げることができた。</p> <p>○ 外部指導者に入ってもらい、運動が苦手な生徒に対して手厚い支援ができた。</p> <p>○ 楽しく学ぶ雰囲気を外部指導者と共につくることができた。</p> <p>○ 技の解説を実際に目の前で見せながら行ったので、理解しやすく、基礎を固めることができた。</p>
---

## ●課題

<p>○ 合気道の授業を行うにあたって、技能等の指導は専門性が高く、現段階では外部指導者に来校してもらわないと指導するのは難しいと感じた。</p> <p>○ 今回の日程は、気候的にも暑すぎず寒くない時期だったので秋に行うのが良いと感じた。</p> <p>○ 畳とマットの準備、片付けに時間を取られないように時間割の調査や計画的な指導と手立てが必要だと感じた。</p>
---



多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化  
 武道推進モデル校 研究報告

合気道	田辺市立上芳養中学校
-----	------------

●実践研究のねらい

- 合気道における歴史について学び、外部指導者から指導を受け、専門的な知識や技能を身に付ける。
- 和合の心を養い、合気道の授業の中だけでなく日常生活においても人を大切にする心を養う。

●多様な武道の指導モデル 第1学年（1学級13名）

	1	2	3	4	5	6	7	8		
種目	合気道									
学習の流れ	事前学習① （植芝盛平翁・歴史について）	事前学習② （畳の設置や受け身について）	導入（あいさつ、点呼、本時の目標と展開について）							
			準備体操 基本動作・用語 受け身	準備体操 基本動作 受け身	準備体操 基本動作 受け身					
				前時の振り返り （前時の技）	前時の振り返り （前時の技）					
			技の習得 （小手返し）	新しい技の習得 （入り身投げ）	学習のまとめ と振り返り					
			本時の振り返り・まとめ							

●指導の工夫

- 安全面について
  - ・ 昨年度の振り返りから、2年生は人数が多く畳の枚数が足りなくて危険であったため、今年度は1年生で実施した。また、畳の周りにスポーツ施設から借りたマットを60枚程度敷き、けが防止のためのスペースを確保した状態で授業を実施した。
  - ・ 技を実施する際には、受け身をして周回の生徒と衝突しないよう一方向に揃えて実施し、外部指導者と教員が生徒2ペアに対して必ず1人付いた状態で実施した。
- 指導面について
  - ・ 生徒のモチベーション向上に繋げるため、外部指導者から専門的な授業を受ける際に、指導者の動きや技を見る場面を多く取り入れた。
  - ・ 2時間を1コマとして行い、基本動作や技を反復練習する時間を多く取り、定着を図った。
  - ・ 安全管理の面だけでなく、技能の習得の面からも外部指導者と教職員の複数で指導に当たった。

## ●授業の様子



【 事前学習②の様子 】

・投げ技を学習するにあたり、事前に受け身の仕方について学習している。



【 小手返しの練習風景 】

・外部指導者による技術面の指導を行っている。安全面も考慮しながら指導を行っている。

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>																								
<table border="1"> <tr> <td>高まった</td> <td>76.9%</td> </tr> <tr> <td>やや高まった</td> <td>23.1%</td> </tr> <tr> <td>あまり高まらなかった</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>高まらなかった</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>	高まった	76.9%	やや高まった	23.1%	あまり高まらなかった	0.0%	高まらなかった	0.0%	<table border="1"> <tr> <td>深まった</td> <td>53.8%</td> </tr> <tr> <td>やや深まった</td> <td>30.8%</td> </tr> <tr> <td>あまり深まらなかった</td> <td>15.4%</td> </tr> <tr> <td>深まらなかった</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>	深まった	53.8%	やや深まった	30.8%	あまり深まらなかった	15.4%	深まらなかった	0.0%	<table border="1"> <tr> <td>楽しい</td> <td>84.6%</td> </tr> <tr> <td>やや楽しい</td> <td>15.4%</td> </tr> <tr> <td>あまり楽しくない</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>楽しくない</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>	楽しい	84.6%	やや楽しい	15.4%	あまり楽しくない	0.0%	楽しくない	0.0%
高まった	76.9%																									
やや高まった	23.1%																									
あまり高まらなかった	0.0%																									
高まらなかった	0.0%																									
深まった	53.8%																									
やや深まった	30.8%																									
あまり深まらなかった	15.4%																									
深まらなかった	0.0%																									
楽しい	84.6%																									
やや楽しい	15.4%																									
あまり楽しくない	0.0%																									
楽しくない	0.0%																									

### 生徒の感想より

- ・ 合気道は相手と競うものではなく、お互いに高めあったり、自分の身を守ったりするためのものであることが分かった。
- ・ 合気道を習ってみたかったので、今回の授業でたくさんのことが学ぶことができてよかった。来年はもっと上手に技ができるようになりたい。

## ●成果

- 合気道の授業を通して、礼儀や相手を思いやる気持ちの意識づけができた。意欲的に取り組む生徒が多く、来年度も授業を受けたいという意見が多かった。継続して来年度も行いたい。
- 武道種目を経験している教員がいない中での武道授業の実施は困難であるため、地域の専門的な外部指導の方に指導いただくことで専門的な技能の向上だけでなく、安全面や興味関心の向上にも繋がった。

## ●課題

- 今年度はマットを借りて実施できたが、借りられない場合には安全面で不安がある。その場合は学校での実施は難しいことも考えられるので、地域の武道館で授業を実施するなどの手立ても必要だと感じた。

多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化  
 武道推進モデル校 研究報告

合気道	田辺市立新庄中学校
-----	-----------

●実践研究のねらい

- 外部指導者による専門的な指導、教員のTTによる指導で、単元計画の限られた時数で、より効果的な指導を目指す。
  - ・ 連携した指導で、生徒の知識及び技能の習得を目指す。
  - ・ 武道（合気道）を専門としていない教師が武道について学ぶ機会とすることにより、教師のスキルアップにつなげる。
- 合気道を2年間継続して取り組み、本県発祥の武道の基礎を継続して学ぶ。

●多様な武道の指導モデル 第2学年（学級46名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
種目	合気道									
学習の流れ	オリエンテーション（合気道）	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の流れとめあての確認）								
		準備運動								
		基本動作の学習				前時の復習				
		受け身の学習					受け身の学習			まとめの学習
		対人的技能の学習				対人的技能の学習				
		整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ								

●指導の工夫

- ・ 2時間続きの授業とし、継続性、指導効率を高めた。
- ・ 外部指導者の方に、演武や模範演技をしていただき、本来の合気道の迫力や技のポイントを具体的に伝えてもらえるように依頼した。
- ・ ペアでお互いを尊重しつつ学習できるように指導した。
- ・ 技の指導は、外部指導者、教員3～4名体制で、役割分担を明確にし、全生徒に目が行き届き、声をかけられる体制を作った。また、事故を起こさせない、ケガをさせない、安全体制を作った。

## ●授業の様子



【合気道】

受け身の練習（顎を引いて後頭部があたらないように）



【合気道】

小手返し（相手のバランスを上手に崩す）

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>																								
<table border="1"> <tr> <td>高まった</td> <td>28.2%</td> <td>やや高まった</td> <td>2.6%</td> </tr> <tr> <td>あまり高まらなかった</td> <td>66.7%</td> <td>高まらなかった</td> <td>2.6%</td> </tr> </table>	高まった	28.2%	やや高まった	2.6%	あまり高まらなかった	66.7%	高まらなかった	2.6%	<table border="1"> <tr> <td>深まった</td> <td>43.6%</td> <td>やや深まった</td> <td>5.1%</td> </tr> <tr> <td>あまり深まらなかった</td> <td>51.3%</td> <td>深まらなかった</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>	深まった	43.6%	やや深まった	5.1%	あまり深まらなかった	51.3%	深まらなかった	0.0%	<table border="1"> <tr> <td>楽しい</td> <td>30.8%</td> <td>やや楽しい</td> <td>64.1%</td> </tr> <tr> <td>あまり楽しくない</td> <td>5.1%</td> <td>楽しくない</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>	楽しい	30.8%	やや楽しい	64.1%	あまり楽しくない	5.1%	楽しくない	0.0%
高まった	28.2%	やや高まった	2.6%																							
あまり高まらなかった	66.7%	高まらなかった	2.6%																							
深まった	43.6%	やや深まった	5.1%																							
あまり深まらなかった	51.3%	深まらなかった	0.0%																							
楽しい	30.8%	やや楽しい	64.1%																							
あまり楽しくない	5.1%	楽しくない	0.0%																							
<p>○ 今まで友達が合気道をしていて興味があった。何回かインターネットなどで調べたけど、実際にやってみるとその楽しさがわかった。来年も頑張りたいと思う。</p> <p>○ 植芝盛平さんの名前は知っていたけど、具体的に何をした人か知らなかった。でも授業を通して、植芝盛平さんが始めた合気道の技を体験できてよかった。</p> <p>○ 最初は相手を倒すことに抵抗があったけど、お互いのことを思いやる心を鍛えるためにやると聞いて、相手をケガしないように上手に投げることを意識できた。</p> <p>○ 2人の指導者の方の迫力のある演技を見られて、合気道の魅力をさらに感じる事ができた。</p>																										

## ●成果

<p>○ 昨年よりも、外部指導者の方を増員していただいたことで、演武や模範演技から本来の合気道の迫力を目の前で体験できた。</p> <p>○ ペアを定期的に変えることで、どんな人とも心を合わせて技を完成させるように取り組む姿をみることができた。</p> <p>○ 武道を通して、日本の伝統文化、礼儀作法、思いやりの気持ちを学ぶ良い学習となった。</p>
--

## ●課題

<p>○ 地域における専門的な指導者の有無、また毎年同じクオリティーの（外部指導者2名以上）指導を依頼できるか等が、継続していくための課題である。</p> <p>○ 安全面の対策のため、複数の指導者で指導にあたる必要がある。時間割の組み換え等工夫が必要である。</p>
--

多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化  
 武道推進モデル校 研究報告

合気道	田辺市立中芳養中学校
-----	------------

●実践研究のねらい

- 田辺発祥である合気道を学習し、住んでいる地域の文化に誇りをもったり、愛着を深めたりできるようにする。
- 「礼に始まり礼に終わる」などの伝統的な行動を大切にし、自分で自分を律することができるようにすると共に、人間形成につながることを理解し、取り組めるようにする。

●多様な武道の指導モデル 第1学年（学級 22名）

	1	2	3	4	5	6	7
<b>種目</b>	合気道						
<b>学習の流れ</b>	オリエンテーション	導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）					
		準備運動	外部講師による技の指導	前時の復習	外部講師による技の指導	外部講師による技の指導	外部講師による技の指導
		（受け身、体さばき） 基本動作の習得					
		振り返り					

●指導の工夫

- 2時間続きの授業形態を基本とし、1時間目に本校教員による復習を中心とした指導、2時間目以降に外部指導者による新しい技の指導を行った。
- 本校教員と外部指導者の複数名で巡回指導を行うことで、きめ細やかな指導を行った。
- 1～5時間目の授業は本校体育館に畳を55畳敷いて行った。6、7時間目の授業は田辺市立武道館で授業を行い、授業後は植芝盛平記念館で人物学習を行った。
- 毎時間ワークシートに振り返りを記入させることで、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の定着を図った。

## ●授業の様子



### 【 学校での授業 】

体育館での授業の様子。本校教員が指導する時は、外部講師は生徒とペアになって技を指導してもらった。



### 【 校外学習での授業 】

武道館で外部講師による授業を行っている様子。

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>																								
<table border="1"> <tr> <td>■高まった</td> <td>■やや高まった</td> <td>■あまり高まらなかった</td> <td>■高まらなかった</td> </tr> <tr> <td>44.0%</td> <td>46.0%</td> <td>8.0%</td> <td>2.0%</td> </tr> </table>	■高まった	■やや高まった	■あまり高まらなかった	■高まらなかった	44.0%	46.0%	8.0%	2.0%	<table border="1"> <tr> <td>■深まった</td> <td>■やや深まった</td> <td>■あまり深まらなかった</td> <td>■深まらなかった</td> </tr> <tr> <td>51.0%</td> <td>42.9%</td> <td>4.1%</td> <td>2.0%</td> </tr> </table>	■深まった	■やや深まった	■あまり深まらなかった	■深まらなかった	51.0%	42.9%	4.1%	2.0%	<table border="1"> <tr> <td>■楽しい</td> <td>■やや楽しい</td> <td>■あまり楽しくない</td> <td>■楽しくない</td> </tr> <tr> <td>77.6%</td> <td>22.4%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>	■楽しい	■やや楽しい	■あまり楽しくない	■楽しくない	77.6%	22.4%	0.0%	0.0%
■高まった	■やや高まった	■あまり高まらなかった	■高まらなかった																							
44.0%	46.0%	8.0%	2.0%																							
■深まった	■やや深まった	■あまり深まらなかった	■深まらなかった																							
51.0%	42.9%	4.1%	2.0%																							
■楽しい	■やや楽しい	■あまり楽しくない	■楽しくない																							
77.6%	22.4%	0.0%	0.0%																							
<p>アンケートの結果から、武道への関心や伝統的な考え方、行動の仕方については、約半分の生徒が理解し関心を高められていることが分かった。また、武道を学習する授業が楽しいかという質問には、7割以上の生徒が楽しいと答えている。また、楽しくないと回答した生徒はいなかった。</p>																										

## ●成果

- 生徒にアンケートをとったところ、約7割の生徒が楽しかった単元として合気道を挙げていた。
- 外部指導者による授業は大変充実したものであり、専門性はもちろんのこと、模範演技などの迫力、実際に生徒が技を受けてみるなど、保健体育科教員だけではできない授業をすることができた。
- 校外学習を兼ねて田辺市立武道館で授業を行ったことで、併設する植芝盛平記念館で合気道の歴史について、実際に見学することができ、有意義なものとなった。

## ●課題

- 現在は外部指導者による授業ができているが、今後、保健体育科教員だけで授業を行う場面がでてきた場合に、専門性や技術指導の面で不安が残る。
- 生徒の興味・関心を高める工夫を考えていく。
- 今後も継続して合気道を指導していくためにも、外部指導者の確保、教員の指導力向上が必要となってくる。



# 多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化 武道推進モデル校 研究報告

<b>合気道</b>	<b>田辺市立東陽学校</b>
------------	-----------------

## ●実践研究のねらい

- 合気道発祥の地として、合気道の歴史、人物学習を行うとともに、武道ならではの礼儀作法や対人的技能を学び、「和合の心」について理解を深める。
- 2年間かけて合気道の基本動作、受け身、対人的技能を学び、技能の定着を図る。
- 外部指導者による専門的な指導、TTによる連携で生徒の知識及び技能の習得を目指す。指導、援助の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。

## ●多様な武道の指導モデル 第2学年（3学級94名）

種目	1	2	3	4	5	6	7	8	
	合気道								
<b>学習の流れ</b>	オリエンテーション	導入（健康観察・本時の流れの説明）							
		準備運動							
		受け身の学習	基本動作の復習	受け身の復習	新たな対人的技能の習得	基本動作 受け身 前回の学習した対人的技能の復習	新たな対人的技能の習得	基本動作 受け身 前回の学習した対人的技能の復習	新たな対人的技能の習得
		整理（振り返り・次時の連絡）							

## ●指導の工夫

1. 効果的に指導するための工夫
  - 外部指導者の模範となる技、受け身を視覚的に伝えることができた。それを動画で撮影し、教員の教材研究としても活用した。
  - 技の練習の際には教職員を含め、巡回指導で細やかな指導を行った。また、ワークシートを活用し、技のポイント、生徒自身が工夫した点などを記入し、知識及び技能の定着を図った。
  - 2時間続きの授業を主とし、継続した授業時間の活用、時間の効率的な使い方を考え、技の反復、応用の定着を図った。
2. 生徒の安全を確保するための工夫
  - 本校には武道場がないため、体育館を使用して武道の授業を行っている。本校にある畳50畳以外に、他校から50枚程度借り、効率と安全を確保できるよう工夫している。  
さらに、畳がすべらないように、ほこり等への対策をして、湿らせてから畳を敷くようにした。
  - 「受け」と「取り」の位置を揃えるとともに、外部指導者2～3名、教員1名での巡回を通して、隣どうしの間隔をとるようにし、技をかける際の安全を意識した。

## ●授業の様子



### 【 外部講師の技の説明 】

3つの技の習得を図ったが、生徒が取り組む前に、外部講師が技を見せ、1つ1つのポイントを丁寧に指導している様子。向きを変え、全員が見やすいよう配慮している。



### 【 対人技能の習得 】

「正面打ち小手返し」の技の習得をペアになって、反復練習している様子。1つ1つの動きを区切りながらポイントを押さえて指導している。

## ●生徒の取り組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>
<p>■ 高まった      ■ やや高まった ■ あまり高まらなかった   ■ 高まらなかった</p>	<p>■ 深まった      ■ やや深まった ■ あまり深まらなかった   ■ 深まらなかった</p>	<p>■ 楽しい      ■ やや楽しい ■ あまり楽しくない   ■ 楽しくない</p>
<p>&lt;感想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合気道では、自分の身を守るための護身術も学び、技の奥の深さを知ることが出来ました。</li> <li>・技のポイントを細かく教えていただいたので、とてもわかりやすかった。</li> <li>・もっといろいろな技を知りたかったし、学びたいと思った。</li> </ul>		

## ●成果

- 外部指導者の技の説明の際には、分かりやすい言葉を選び、細かいポイントを伝えた。さらに、1つの技を5～7つに動きを区切って指導し、生徒が理解してから、区切る数を減らし、授業の流れを大切に指導した。外部指導者の専門性が高く、教員は指導と併せて生徒の安全管理にも注力することができ、生徒達もより深くまで技を理解することができた。今後も外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画を作成し、生徒に対してよりきめ細かな指導を行っていく。

## ●課題

- 生徒は概ね今回の武道授業に対して肯定的な考えを持っている一方で、そうではない生徒もいる。今後、さらに武道への関心が高められるように、外部指導者や教員の役割分担、授業の流れを再検討していきたいと思っている。



## 多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化 武道推進モデル校 研究報告

<h3>合気道</h3> <p>合気道発祥の地として、合気道の授業を通して武道特有の対人的技能を学び、「受け」と「取り」の役割を理解する。</p>	<h3>田辺市立明洋中学校</h3>
---	--------------------

### ●実践研究のねらい

- 合気道を通じて和合の精神や礼儀作法・基本動作・受け身・対人的技能を3年間継続して学ぶことにより、作法や技能の定着を図る。
- 外部指導者による専門的な指導、TTによる連携で生徒の知識及び技能の習得を目指す。指導・援助の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。

### ●多様な武道の指導モデル 第1～3学年（8学級247名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	
種目	合気道								
学習の流れ	〈昨年度の復習〉 ・基本動作確認 ・昨年度習得した技の確認		導入(挨拶・健康観察・本時の目標・本時の学習の見直し)						学習のまとめ
			準備運動						
			基本動作・受け身の練習						
			前時の復習						
			(対人的技能の復習)						
			対人的技能の復習 (技の習得)						
			振り返り						

### ●指導の工夫

1. 効果的な指導のための工夫
  - ・ 基本動作や受け身などの技能をより定着させるため、事前授業を2時間行った。また、2・3年生については、よりスムーズに技能定着を図るため、昨年度の復習を行った。
  - ・ 外部指導者を招いた授業では、2時間連続で行い、より時間を効果的に使うことができた。また、生徒の技能習得につなげるため、外部指導者から示範してもらう時間を多くとった。より分かりやすい指導となり、さらに、より細やかな指導を行うため、教員と外部指導者が連携した。
2. 生徒の安全を確保するための工夫
  - ・ 合気道の本格的な授業に入る前に、事前学習として受け身や礼儀作法の学習を行っている。このことにより、合気道の授業がスムーズに行え、怪我や事故の防止につながっている。
  - ・ 体育館にマットを敷いて指導するため、生徒同士の間隔が広くとれるよう体育館全体にマットを敷き、十分な広さを確保できるよう工夫した。
    - ・ 「受け」と「取り」の位置を揃えるとともに、外部指導者と教員が巡回し、隣同士や技をかける際の安全を意識した。

## ●授業の様子



【 合気道の技の習得 】  
外部指導者から直接指導を受ける様子



【 合気道の技の習得 】  
「四方投げ裏」をペアで練習している様子

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

1. 合気道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2. 合気道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3. 合気道を学習する授業は楽しいですか。
<ul style="list-style-type: none"> <li>今日、教えてもらった技は、片手持ちの回転投げという技です。受け身がとても難しかったけど、楽しかったです。そして最後に先生たちに演武を見せてもらいました。とても格好良かったです。来年も合気道を学ぶ予定なので、とても楽しみです。合気道は難しいけど、楽しかったです。</li> <li>前回の授業でやった前受け身を少し家で練習してみました。初めてやったときよりは上手に回れていたと思います。授業が終わっても家でたまに練習してみたいと思います。どの技も格好良くて、アクション映画の撮影をしている気分になりました。</li> </ul>		

## ●成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合気道の指導において外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、模範となる動作を見せてもらえること、細かなポイントのアドバイスなど、きめ細かな指導をしてもらうことができた。また、教員と外部指導者で指導の連携を図ることで、より安全で効果的な指導を行うことができた。</li> <li>○ 3年間継続して授業を行うことで、各学年のつながりをもって技を習得できるとともに合気道を通じて相手を思いやる心や礼儀について全学年で指導することができた。</li> <li>○ 合気道は、運動が比較的苦手な生徒も、技を習得することができ、達成感を得られるのが大変良い点であり、合気道の授業を楽しんでいる生徒が多い。</li> <li>○ 今年度は田辺市で行われた世界遺産学習全国サミットのエクスカージョンにおいて、1年生が合気道の演武を披露する機会があり、学校の取組を発信することができた。</li> </ul>
---

## ●課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合気道指導者の確保と、打合せの時間の確保が課題である。合気道有段者の方々は、各々仕事があるため、授業時間に講師として指導していただける人が限られる。また、教員との連携は大事であるが、そのための時間についても、それぞれの業務終了後に設定する必要がある。</li> <li>○ 事前授業は教員2名での指導であったため、支援を要する生徒への対応が難しかった。</li> <li>○ 教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく。</li> </ul>
---

# 多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化 武道推進モデル校 研究報告

<b>合気道</b>	<b>田辺市立龍神中学校</b>
------------	------------------

## ●実践研究のねらい

- 合気道の礼法、基本動作、受け身、対人的技能を習得させるとともに、合気道が様々な武道の要素を取り入れて成立したことを理解させるようにする。
- 専門的な知識及び技能をもつ外部指導者と教科担任とが連携した授業により、生徒がより効果的に知識及び技能を習得するための指導計画の確立を目指す。

## ●多様な武道の指導モデル 第3学年（1学級23名）

	1	2	3	4	5	6
種目	合気道					
学習の流れ	導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）					
	準備運動					
	受け身	対人的技能 の習得 (新しい技 の習得)	受け身	対人的技能 の習得 (新しい技 の習得)	受け身	「護身術」 対人的技能 の習得 (新しい技 の習得)
	基本動作		基本動作		基本動作	
	1・2年生 で学習した 技の復習	前時の復習 (対人的技能 の習得)	前時の復習 (対人的技能 の習得)	前時の復習 (対人的技能 の習得)	前時の復習 (対人的技能 の習得)	
	整理（本時の振り返り・健康観察・あいさつ）					

## ●指導の工夫

### 1 効果的に指導するための工夫

- 生徒が、外部指導者の模範となる技をより理解できるようにするため、外部指導者2名を講師として招く。また、教科担任は合気道の知識及び技能を習得して授業に臨めるよう、外部指導者から事前に指導を受け、連携を図る。
- 生徒の学習効果を高めるために、2時間続きの授業展開を計画し、前時の復習と新しい技の習得が十分できる時間を確保する。

### 2 生徒の安全を確保するための工夫

- 準備運動を行う時間を十分にとることにより、けがの防止に努め、3人体制で授業を展開した。
- 85畳の畳とその周りにマットを敷きつめることにより、効率的で安全な指導を行うようにした。

## ●授業の様子



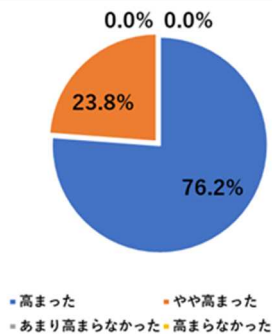
【ペアによる対人的技能の習得練習】  
男女ペアによる、習ったワザの復習



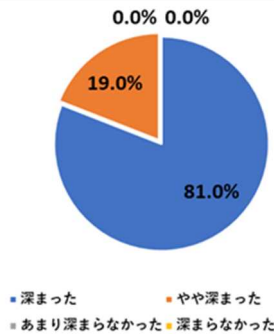
【外部指導者による模範演技】  
合気道のまとめ・護身術の技の模範

## ●生徒の取り組み方や意識の変容、感想など

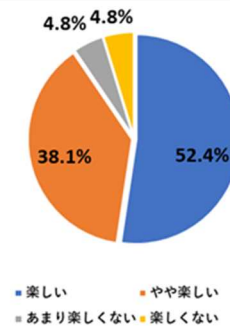
1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。



2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。



3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。



### ◎ 生徒の感想

- 3年間たくさん技を習ってきて、難しく苦戦した時もあったけど、1つの技が完成した時の達成感と喜びを感じることができ、ものすごく楽しかった。
- 自分の力ではなく、相手の動きを利用して倒すということは難しかったけど、ただ倒して終わりではなく、相手はどういう動きをしたいのか、自分はしたら対応できるのかを考えられるようになった。
- 3年間、合気道を学んで、武道の心のもち方や、礼儀などを学ぶことができた。学んだことをこれからも生かしていきたい。

## ●成果

- 3年間継続して取り組んだことで、技への関心が高まり、崩しや受け身などの技能の向上を図ることができた。
- 体格差や性差に関係なく組み、武道を楽しめたことで、合気道を生涯スポーツとして考えることができた。
- 有段者の先生方から合気道の楽しさを教わることができ、「将来黒帯をとりたい」と話す生徒もいた。3年間充実した授業となった。

## ●課題

- 今後生徒数が減少する中で、実技の実践経験を多く取り入れるための指導の工夫が必要である。他学年との合同授業や他校との交流授業を考えていきたい。
- 本校は保健体育科の教員が1名のため、授業の指導展開がパターン化しないように工夫していく必要がある。

### 3 参考【平成21～令和4年度授業研究会開催内容一覧】

#### (1) 幼稚園

校種	領域	内容	学年	園名	授業者	年度
幼稚園	健康	運動遊び	年少～年長	和歌山市立湊幼稚園	全教員	26
		運動遊び －親子運動遊び－		九度山町立九度山幼稚園	全教員	26
		運動遊び		和歌山市立宮前幼稚園	全教員	27
		運動遊び		和歌山市立中之島幼稚園	全教員	28
		運動遊び	5歳児	和歌山市立中之島幼稚園	北川 泰大 上西 美徳	29

#### (2) 小学校

校種	領域	内容	学年	学校名	授業者	年度
小学校	体づくり運動	多様な動きをつくる運動遊び	1年	和歌山市立今福小学校	岩崎 裕子	23
		多様な動きをつくる運動遊び		和歌山大学教育学部 附属小学校	渡辺 圭	24
		多様な動きをつくる運動遊び	2年	海南市立大野小学校	岩橋 由理	28
		多様な動きをつくる運動	3年	海南市立大野小学校	辻 直敬	29
		体力を高める運動 －パワーアップ大作戦－	5年	橋本市立紀見小学校	石井 美行	21
		体力を高める運動		由良町立由良小学校	里森 翔	24
		体力を高める運動		紀美野町立野上小学校	安田 雄一	25
		体力を高める運動		和歌山市立中之島小学校	後藤 雅俊	30
		体ほぐしの運動・体力を高める運動		田辺市立田辺第三小学校	塩路 文哉	30
		体力を高める運動 －いろいろな用具を使って－	6年	海南市立黒江小学校	阪口 貴史	21
		体力を高める運動 －縄跳び運動－		新宮市立王子小学校	山本 健一	21
		体力を高める運動 －ミニ駅伝・走るっておもしろい－		紀の川市立長田小学校	小川 強	22
		体力を高める運動		海南市立巽小学校	服部 康雄	23
		体力を高める運動		岩出市立根来小学校	山脇 勇人	28
	体ほぐしの運動・体力を高める運動	岩出市立山崎北小学校		熊代 悟志	R1	
	器械運動	器械・器具を使っての運動遊び	1年	和歌山市立中之島小学校	森下 華菜子	27
		跳び箱運動	3年	印南町立清流小学校	山下 展弘	22
			5年	上富田町立市ノ瀬小学校	蕨野 寿	22
				岩出市立中央小学校	高橋 智紀	23
			5・6年	古座川町立高池小学校	橘 創	25
6年			和歌山市立野崎西小学校	山田 充洋	27	
マット運動		3年	有田川町立藤並小学校	寺村 太樹	29	
		4年	日高町立志賀小学校	北山 憲昭	21	
	有田川町立藤並小学校		寺村 太樹	28		
	5年	海南市立中野上小学校	中家 佳紀	22		

校種	領域	内 容	学年	学校名	授業者	年度	
小 学 校		マット運動	5年	紀の川市立粉河小学校	池本 光夫	28	
			4・5・6年	那智勝浦町立太田小学校	永立 琢人	22	
			6年	紀の川市立調月小学校	森奥 健太	25	
			全学年	那智勝浦町立太田小学校	堀口 徳正	27	
	陸上運動	走・跳の運動遊び ーとびっこマスターになろうぜ！ー	2年	和歌山市立野崎西小学校	中筋 達也	22	
		走・跳の運動 幅跳び	4年	紀の川市立田中小学校	森口 裕介	28	
				紀の川市立田中小学校	森口 裕介	29	
		短距離走・リレー	6年	田辺市立上秋津小学校	瀬田 公寛	21	
	御坊市立湯川小学校			今北 知志	26		
	水 泳	浮く・泳ぐ運動 ー呼吸をしながらの初歩的な動きー	4年	美浜町立和田小学校	山本 恵史	26	
		クロール・平泳ぎ	5・6年	有田川町立石垣小学校	生馬 裕久	22	
	ゲーム	ボールゲーム ーシュートゲームー	1・2年	由良町立白崎小学校	玉井 貴憲 望月 志保	R1	
		ボールゲーム	2年	串本町立西向小学校	河田 恵美	23	
		ベースボール型ゲーム ーティーボールー	3年	有田川町立小川小学校	竹内 秀昭	21	
				和歌山市立中之島小学校	稲垣 輝一	R4	
		ゴール型ゲーム ータグラグビーー	3年	和歌山市立西脇小学校	小杉 栄樹	21	
		ネット型ゲーム ープレルボールー		有田市立港小学校	倉本 健吾	23	
		ゴール型ゲーム ーポートボールー	4年	和歌山市立中之島小学校	中筋 達也	28	
		ベースボール型ゲーム ーキックベースボールー		高野町立高野山小学校	岡 恭行	26	
		ゴール型ゲーム ーアルティメットー	4年	田辺市立鮎川小学校	尾崎 亮	R4	
		ゴール型・ネット型 ーキンボールー		橋本市立学文路小学校	大谷 裕幸	22	
		ボール運動	ゴール型 ーフラッグフットボールー	5年	御坊市立塩屋小学校	橋本 晃和	23
			ゴール型 ータグラグビーー		白浜町立西富田小学校	嶺口 智一	24
			ネット型 ーソフトバレーボールー		和歌山市立川永小学校	南方 孝俊	26
					海南市立大野小学校	山下 勝也	28
	那智勝浦町立宇久井小学校			西 起也	R3		
	和歌山市立今福小学校			貴志 優太	R4		
	和歌山市立中之島小学校		山本 祥	R5			
	ベースボール型 ーティーボールー		5年	和歌山市立中之島小学校	柳 政和	29	
	ゴール型 ーバスケットボールー			紀の川市立西貴志小学校	谷口 博司	21	
ゴール型 ーハンドボールー	6年		すさみ町立周参見小学校	深海 真也	23		
			かつらぎ町立洪田小学校	上野 昌之	23		
			和歌山市立中之島小学校	中筋 達也	27		
			海南市立大東小学校	松尾 彰彦	R3		
			高野町立高野山小学校	中野 太一	24		
			ゴール型 ーフラッグフットボールー	和歌山市立中之島小学校	中筋 達也	27	
ゴール型 ーフットボールー	和歌山市立中之島小学校		中筋 達也	27			
ベースボール型 ーTE-YA(庭球野球)ー	和歌山市立中之島小学校	中筋 達也	27				

校種	領域	内 容	学年	学校名	授業者	年度
小学校	表現運動	表 現	5年	美浜町立松原小学校	坂本 明菜	26
			6年	広川町立南広小学校	三角 佑	25
				紀の川市立調月小学校	森奥 健太	28
	保健	病気の予防	6年	紀の川市立粉河小学校	上西 隆夫	28

### (3) 中学校

校種	領域	内 容	学年	学校名	授業者	年度	
中学校	体づくり運動	体力を高める運動	1年	かつらぎ町立笠田中学校	福島 浩彦	21	
				白浜町立白浜中学校	桑原 仁史	23	
				和歌山市立明和中学校	山田 靖子	30	
			2年	新宮市立光洋中学校	角 利則	23	
				田辺市立明洋中学校	中平 和徳 岩本 将広	30	
				器械運動	マット運動	1年	紀の川市立打田中学校
	器械運動	跳び箱運動	2年	田辺市立高雄中学校	宮野 好史	25	
			3年	有田川町立金屋中学校	中澤 征司	21	
			2年	紀の川市立貴志川中学校	森田 康介	29	
		跳び箱運動・マット運動	1年	和歌山市立貴志中学校	中村 麻希	28	
			2年	和歌山市立東和中学校	小川 泰伸	21	
			陸上競技	ハードル走	2年	和歌山市立紀伊中学校	藤田 絢子
	陸上競技	ハードル走・走り幅跳び・走り高跳び	1年	橋本市立紀見北中学校	松本 久彦	24	
			1年	串本町立西向中学校	堺 高行	21	
		新宮市立城南中学校		橋本 紀彦	22		
		有田市立保田中学校		蜂谷 俊幸	23		
		3年	すさみ町立周参見中学校	寺本 雄介	21		
			和歌山市立貴志中学校	宮崎 潤	29		
			混成競技	3年	印南町立切目中学校	山本 拓 寺嶋 俊人	27
		長距離走	3年	由良町立由良中学校	濱口 祐一	R1	
		水 泳	泳法 ークロール・平泳ぎー	3年	上富田町立上富田中学校	中平 啓太	22
		球技	ゴール型 ーバスケットボールー	1年	印南町立印南中学校	中根 譲治	22
	和歌山市立西和中学校				尾崎 有希子	22	
	2年			田辺市立中芳養中学校	井上 一光	R4	
	ゴール型 ーハンドボールー		3年	紀美野町立野上中学校	中谷 理沙子	24	
				紀の川市立貴志川中学校	小川 和	28	
				有田市立保田中学校	蜂谷 俊幸	26	
				和歌山市立楠見中学校	下田 健斗	R4	
ネット型 ーバレーボールー	2年		新宮市立城南中学校	成見 雅貴	24		
			紀の川市立貴志川中学校	畑山 武宏	R5		
			みなべ町立上南部中学校	山本 尚貴	25		
		海南市立第三中学校	下田 里奈	R3			
ネット型 ーバドミントンー							

校種	領域	内容	学年	学校名	授業者	年度
中学校	武道	柔道	1年	日高町立日高中学校	中本 和志	21
				広川町立耐久中学校	森川 博司	22
				高野町立高野山中学校	木村 陽介	22
				岩出市立岩出第二中学校	千原 慶晃	R1
			2年	紀の川市立荒川中学校	林 剛	21
				岩出市立岩出第二中学校	東 芳弘	23
				岩出市立岩出中学校	藤田 圭造	25
				美浜町立松洋中学校	三原 史也	26
	剣道	1年	海南市立下津第二中学校	岩尾 元	21	
			御坊市立河南中学校	平林 常匡	23	
		2年	和歌山市立西浜中学校	永瀬 覚	25	
			海南市立第三中学校	芝崎 公彦	28	
		3年	海南市立第三中学校	芝崎 公彦	29	
	ダンス	創作ダンス	1年	海南市立亀川中学校	吉田 恵介	23
2年			海南市立巽中学校	立花 大輔	22	
現代的なリズムのダンス		2年	有田川町立吉備中学校	小松 柔	28	
		3年	有田川町立吉備中学校	小松 柔	29	

#### (4) 高等学校

校種	領域	内容	学年	学校名	授業者	年度
高等学校	体づくり運動	体力を高める運動	1年	県立新宮高等学校	丹羽 泰一郎	30
	器械運動	マット運動	1年	県立箕島高等学校	川嶋 英嗣	23
				県立海南高等学校	安永 元樹	R4
	陸上競技	競走 ー長距離走ー	1年	県立新翔高等学校	脇本 優生	24
				県立星林高等学校	山本 喜一郎	25
			2年	県立那賀高等学校	川畑 源大	29
	球技	ネット型 ーバレーボールー	2年	県立那賀高等学校	谷 早織	22
			1年	県立田辺工業高等学校	檜山 匠	27
		ゴール型 ーバスケットボールー	3年	県立桐蔭高等学校	外川 広興	28
				県立桐蔭高等学校	外川 広興	29
		ネット型 ーテニスー	2年	県立桐蔭高等学校	中条 文弥	R5
			3年	県立神島高等学校	古川 一	R1
	武道	剣道	1年	県立貴志川高等学校	柿原 千絵	24
			2年	県立那賀高等学校	塚本 浩史	28
	ダンス	現代的なリズムのダンス 創作ダンス	1年	県立桐蔭高等学校	迫田 妙	23
		現代的なリズムのダンス	1年	県立新宮高等学校	田寺 美絵	25
創作ダンス		1年	県立有田中央高等学校	福田 亜唯	26	



(5) 特別支援学校

特別支援学校	体づくり運動	大縄跳び	小学部 低学年	県立みくまの支援学校	坂田 昌寛	26	
		サーキット運動	小学部	県立紀北支援学校	小山 誓子	28	
		縄跳び	中学部	県立紀北支援学校	江川 清司	28	
		体ほぐしの運動・体力を高める運動	高等部	県立はまゆう支援学校	林 弘 道本 知紀 谷地 孝行 谷口 雄紀	R1	
		体づくり運動遊び	高等部	県立紀北支援学校	津村 巧巳	R4	
	陸上運動	陸上サーキット運動	中学部	県立みくまの支援学校	上山 喜寛	26	
	球技	ベースボール型 －フットベースボール－	高等部 全学年	県立みくまの支援学校	尾崎 賀津	26	
		ベースボール型 －テーパーボール－	高等部	県立たちばな支援学校	山鷲 壮	27	
		ゴール型 －ポンポンホッケー－	高等部 全学年	和歌山大学教育学部 附属特別支援学校	谷 重男	25	
		キンボール	中学部	県立たちばな支援学校	湯森 昭人	27	
		ゴール型 －ユニバーサルホッケー－	高等部	県立きのかわ支援学校	水本 大史 安達 青児 伴 菜樹 堂本 圭司	30	
	武道	なぎなた	高等部	県立紀北支援学校	坂東 洲子	28	
				県立紀北支援学校	坂東 洲子	29	
	表現運動	リズムダンス	小学部 全学年	県立たちばな支援学校	池田 千奈	27	
	自立活動	身体の動きを通して	小学部 中学部	県立紀北支援学校・愛徳分教室	川口 雅子	28	
		体づくり運動・ボールを使った運動やゲーム	ボールで遊ぼう	小学部	和歌山大学教育学部 附属特別支援学校	藪本 安有美	R5

大好きな気持ちを  
忘れずに♡

田中理恵

# 紀州っ子ががやき エクササイズ&ダンス

中学生用「ダンス」も踊ってみてね!!



提供:日本体育大学

## 田中理恵 Rie Tanaka

6歳から体操を始め、和歌山県立和歌山北高校から日本体育大学に進学。2010年ロッテルダム世界選手権では、最も美しい演技で観客を魅了した選手に贈られる「ロンジン・エレガンス賞」を日本女子選手で初めて受賞。2012年ロンドンオリンピックに出場し、団体8位入賞に貢献。現在は、日本体育大学 児童スポーツ教育学部の教員をつとめる。



## 天翔りいら Lyra Amato

2008年3月 宝塚歌劇団入団。「ME AND MY GIRL」で初舞台。「エリザベート」「ロミオとジュリエット」など数々の大作に出演し、ダンサーとして活躍。2013年3月「ベルサイユのばら、オスカルとアンドレ編」にて退団。その後、ラジオのパーソナリティーやダンス講師、ダンスワークショップも開催。ディナーショーLIVE等へ出演し、舞台俳優、歌手、映像の分野など幅広く活躍している。



## 遠山大輔 Daisuke Tohyama

16歳からダンスを始める。アメリカへ渡りロイヤルカリビアンクルーズと契約。ダンサーとしてバハマやフロリダで活躍。帰国後、様々なミュージカルに出演。他にもTVCMや振付アシスタント・舞台演出など様々なジャンルで活躍中。主な出演作品は「遠い夏のゴッホ」「ピーターパン2012」「ロミオとジュリエット2013」「歴史にドキリ」等。

## 小学生用エクササイズ 「ワクワクわかやまワンダーランド」

振付/田中理恵(日本体育大学)、信田美帆(体操指導師)  
作詞・作曲・ヴォーカル/古家学  
協力/日本体育大学

## 中学生用ダンス 「STORY」

振付・作詞・ヴォーカル/天翔りいら(元宝塚歌劇団)  
振付・ヴォーカル/遠山大輔(ダンサー・俳優)  
作曲・編曲/立川智也

## 高校生用ダンス 「キミだけの場所」

振付・ヴォーカル/天翔りいら(元宝塚歌劇団)  
振付・作詞・ヴォーカル/遠山大輔(ダンサー・俳優)  
作曲・編曲/立川智也

●中学生・高校生用ダンス監修/学校法人りら創造芸術学園 山上範子